

V. 教員の研究教育・社会貢献活動

(2022年4月1日～2023年3月31日)

【超領域文化論講座】

ガデミ アミン (GHADIMI Amin) 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Academic Skills)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 近代日本のグローバル思想史

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Ghadimi, Amin. 2022. "Arai Shōgo and His Global Civil War, circa 1885." *Journal of Social History* 56.1: 32-57.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ "Fukuda Hideko and the Transimperial Origins of Japanese Terrorism" 「日本のトランスナショナリズムと帝国」 第5回アルザス・新世代ワークショップ 2022年11月4日
- ・ "On Sanctimony: Shirin Nezammafi in the Global Cultural History of the Present," British Association for Japanese Studies Conference 2022年9月
- ・ "Community and Christianity in the Kumamoto Enlightenment," Ninth International Conference, Japanese Studies, "Dimitrie Cantemir" Christian University, Bucharest 2022年9月
- ・ "The Japanese Counter-Enlightenment," Global Japanese Studies - Education and Research Incubator Monthly Workshop 2022年7月

〈研究助成〉

- ・ 日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 2019年8月 - 2023年3月 「Disorder and the Japanese Revolution: A Global Intellectual History」 (19K23101)

北井 聡子 (Kitai Satoko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ジェンダー論 A・B

〈共通教育担当科目〉 ロシア語初級 I・II 国際コミュニケーション演習 (ロシア語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ロシア・ソ連文化におけるジェンダー・セクシュアリティ表象

〈所属学会〉 日本ロシア文学会、ASEEES(スラブ・東欧・ユーラシア研究協会)

[研究業績]

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 北井聡子 「近代ロシアにおける「個／主体」とエロス論再考」、「プラトンとロシア」 夏期研究会、2022年9月19日、Zoomによるオンライン開催
- ・ 北井聡子 「ボリシェヴィキにおけるメランコリー — 労働者反対派をめぐる2つの喪失」、「プラトンとロシア」 春期研究会、2023年3月8日、早稲田大学とZoomによるハイブリッド開催

〈研究助成〉

- ・ 「近現代ロシア思想における《異他性》の思考：思想的遠近法の再構築をめざして」 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (A)、研究代表者：貝澤哉、課題番号：22H00004、研究分担者
- ・ 「1920年代～30年代ソ連文化におけるジェンダー表象」 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究、課題番号：20K12827、研究代表者

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

- ・ SRC セミナー「プーチン時代のロシア映画：政治、利益、愛国」2022年7月19日、人文学研究科言文B棟大会議室B（大阪大学・豊中キャンパス）とZoomのハイブリッド開催
- ・ ラウンドテーブル「ロシアにおける子供時代：昨日と今日」2022年8月5日、南部陽一郎ホール（大阪大学・豊中キャンパス）とZoomのハイブリッド開催
- ・ OU マルチリンガルプラザ特別セミナー『『ゴールデンカムイ』から考える極東ロシアの歴史と少数民族』2022年12月5日、OU マルチリンガルプラザ（大阪大学・豊中キャンパス）
- ・ 特別講義「沿ドニエストル共和国—未承認・多民族国家の歴史と現在」2022年12月3日、人文学研究科言語文化B棟大会議室B（大阪大学・豊中キャンパス）とZoomのハイブリッド開催

[その他の活動]

〈管理運営〉カリキュラム委員会・小委員会委員、過半数代表者、人文学林学術推進部門

〈学会活動〉日本ロシア文学会事務局（書記担当）、日本ロシア文学会社会連携委員

小杉 世 (KOSUGI Sei) 教授

<https://sites.google.com/site/seikosugi/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉グローバリゼーション論 A・B、現代超域文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〈学部教育担当科目〉グローバリゼーション論 A・B

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語圏文学、オセアニアの先住民/移民文学文化と先住民言語教育、ポストコロニアル文化形成論、モダニズム研究、演劇とコミュニティ、環境芸術と文学、核の表象、医療と文学、先住民医療

〈所属学会〉日本英文学会（日本英文学会関西支部）、日本オセアニア学会、オーストラリア・ニュージーランド文学会、オーストラリア学会、ASLE-Japan（文学・環境学会）、エコクリティシズム研究学会、日本文化人類学会、日本ヴァージニア・ウルフ協会、NZSA (New Zealand Studies Association, UK)、国際演劇協会 (ITI)

[研究業績]

〈編著〉（複数の編者によるもの）

- ・ 湊圭史・一谷智子・小杉世 編『南半球評論』38号、オーストラリア・ニュージーランド文学会、2023年3月（執筆箇所：編集後記）

〈論文〉

- ・ 「〈終わりの風景〉の向こう側—インドラ・シンハの『アニマルズ・ピープル』とボパール、水俣、太平洋核実験、辻和彦・平塚博子・岸野英美 編『終わりの風景—英語圏文学における終末表象』春風社、2022年10月、pp. 177-201.

〈学会プロシーディングス〉

- ・ 「太平洋の核軍事化と先住民共同体—キリバス共和国クリスマス島を中心に—」『日本科学者会議第24回総合学術研究会集予稿集』2023年1月、pp. 193-94.

〈翻訳・翻訳書〉

- ・ 川端康成著、マムヌール・ラハマン訳『雪国 (শুভ্র বরফের দেশ)』ベンガル語版、執筆箇所：“Preface to Bengali translation of Snow Country” (translated into Bengali by Md. Mamunur Rahman)、2023年2月

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 太平洋の核軍事化と先住民共同体—キリバス共和国クリスマス島を中心に— (分科会 C3: オセアニア海洋文化とモンゴル遊牧文化から SDGs を考える)、日本科学者会議 (JSA) 第24回総合学術研究会集、2022年11月22日

〈研究助成〉

・科学研究費補助金 基盤研究 (B) 2020 年度～2023 年度「環太平洋圏における核と原爆をめぐる想像力と植民地主義の研究」(研究代表者:松永京子、課題番号:20H01245、自身の役割:研究分担者)

・科学研究費補助金 基盤研究 (B) 2022 年度～2025 年度「豪マイノリティ作家の 21 世紀の課題解決に向けたネオ・コスモポリタニズム文学研究」(研究代表者:加藤めぐみ、課題番号:22H00653、自身の役割:研究分担者)

・科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2022 年度～2025 年度「人新世の共生をめぐる文学—太平洋島嶼部の先住民・移民文化とグローバリゼーション」(研究代表者:小杉世、課題番号:22K00427、自身の役割:研究代表者)

〈調査活動〉

・キリバス共和国クリスマス島の核実験をめぐる記憶(コロナ禍で渡航ができないため SNS を用いた情報確認)
〈国際共同研究実施状況〉

・プロジェクト名: Cultural Formations Studies V (言語文化共同研究プロジェクト 2022)、自身の役割: 研究代表者
(国外の大学に在職する外国人研究者を含むプロジェクト)

〈分野横断的研究実施状況〉

・国立民族学博物館共同研究(プロジェクト名: オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究、研究代表者: 風間計博、自身の役割: 研究分担者) ※コロナ禍で 2022 年度末まで 1 年延長された。

・国立民族学博物館共同研究(プロジェクト名: 日本人による太平洋の民族誌的コレクション形成と活用に関する研究——国立民族学博物館所蔵朝枝利男コレクションを中心に、研究代表者: 丹羽典生、自身の役割: 研究分担者)

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・ Cultural Formation Studies (略称: CFS 研究会)、2022 年 9 月 10 日、Zoom 開催

・ Cultural Formation Studies (略称: CFS 研究会)、2023 年 3 月 11 日、Zoom 開催

[その他の活動]

〈管理運営〉前期日程試験科目別連絡委員会(全学)、融合教育推進部門委員(人文学林)、研究企画推進委員(部内)、国際交流委員(部内)、高度副プログラム代表者(「世界の言語文化とグローバリゼーション」)

〈学会活動〉オーストラリア・ニュージーランド文学会理事・編集委員、NZSA (New Zealand Studies Association, UK) Council member、エコクリティシズム研究学会地区委員

里内 克巳 (SATOUCHI Katsumi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化共生論 A・B、超領域文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、学問への扉

[研究活動]

〈研究テーマ〉19-20 世紀転換期アメリカ文学における人種・ジェンダー・階級、エスニック文学研究、自伝 (life narrative) 研究

〈所属学会〉日本アメリカ文学会、日本英文学会、日本マーク・トウェイン協会、京大英文学会、日本ウィリアム・フォークナー協会

[研究業績]

〈論文〉

・「『この男、ブラウン』——マーク・トウェイン『ハワイ通信』における〈もう一人の自分〉の役割」『中・四国アメリカ文学研究』2022 年 6 月 pp.29-39.

・「我が風狂の兄——トウェインが描いたオーリオン・クレメンズ」真田満、倉橋洋子、小田敦子、伊藤淑子 編著『19 世紀アメリカ作家たちとエコノミー ～ 国家・家庭・親密な圏域』(彩流社) 2023 年 2 月 (分担執筆: pp.219-36)

〈研究助成〉

・ 基盤研究C「罪悪感の文学——マーク・トウェイン小説作品の自伝的基盤を探る」研究課題番号 16K02490

〈主たる実施者となって開催した学会〉

・ 日本アメリカ文学関西支部支部長として、以下の支部例会の実施責任者となった。

5/7 総会（オンライン）、6/11 例会（神戸女学院大学）、7/23 例会（立命館大学）、9/24 例会（千里金蘭大学）、11/5 例会（京都工芸繊維大学）、12/3 支部大会（武庫川女子大学）、1/7 例会（オンライン）

[その他の活動]

〈管理運営〉人文学研究科言語文化学専攻大学院教務委員長、

〈学会活動〉日本アメリカ文学会関西支部支部長、日本アメリカ文学会代議員

霜島 慶邦 (SHIMOTORI Yoshikuni) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化共生論 A

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〈学部教育担当科目〉言語文化共生論 a

[研究活動]

〈研究テーマ〉現代英語圏文学・文化における第一次・第二次世界大戦の記憶の総合的研究

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、言語文化学会

[研究業績]

〈共著〉

・ 辻和彦他編『終わりの風景——英語圏文学における終末表象』春風社、2022年。担当：霜島慶邦「コロナ禍の時代を生きる命と想像力——アリ・スミス『夏』における「終わりの風景」と希望の可能性」55-77頁。

〈論文〉

・ 霜島慶邦「虹の向こう側の「世界」——D・H・ロレンス『虹』と帝国主義」『言語文化研究』第49巻、2023年3月、71-92頁。

〈研究助成〉

・ 科研費基盤研究(C) (代表)「第一次世界大戦終結100周年のために：21世紀英語文学と他者の記憶／記憶の他者」

〈受賞〉

・ 第31回福原賞 (研究助成部門)

[その他の活動]

〈学会活動〉日本英文学会編集委員、言語文化学会委員

鈴木 啓峻 (SUZUKI Keishun) 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級 (Beginning German)、ドイツ語中級 (Intermediate German)、ドイツ語地域言語文化演習 (Regional Language and Culture Seminar; German)、ドイツ語言語文化演習 (German Language and Culture Seminar; Intermediate)

[研究活動]

〈研究テーマ〉トーマス・マン研究、「共感」概念の比較思想史研究、20世紀初頭ドイツ文学におけるジェンダー研究

〈所属学会〉日本独文学会、日本独文学会京都支部

[研究業績]

〈研究発表〉

・トーマス・マン『主人と犬』(1919) —— 〈牧歌〉における「人間」と「動物」の関係について (第84回オイ
フォリオンの会 2023年3月19日 Online 開催)

(研究助成)

・ヴァイマル期の文学と哲学的人間学における〈共感〉の諸相 —— マンとシェーラーの比較 (日本学術振興会
科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 研究活動スタート支援 2022年8月 - 2024年3月)

中村 綾乃 (NAKAMURA Ayano) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化形成論A、 研究実践基礎、研究発表演習

〈共通教育担当科目〉 学問への扉、ドイツ語初級I、ドイツ語初級II、ドイツ語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ近現代史、ドイツと東アジア関係史、植民地研究、神戸の外国人コミュニティの歴史

〈所属学会〉 日本西洋史学会、日本ドイツ学会、ドイツ現代史学会、阪神ドイツ文学会

[研究業績]

〈研究発表・講演・学会報告〉

・中村綾乃「神戸のドイツ人コミュニティと第二次世界大戦」ドイツ現代史研究会 (2023年1月21日)

(研究助成)

・研究代表者 科学研究費補助金 (基盤C) 「ドイツ帝国の南洋統治と日本の植民地政策」(2020-2023年度)

・研究分担者 神戸大学アーバンイノベーション研究プロジェクト「神戸ユニオン教会における歴史資料の調査・
分析および観光資源としての活用」(2022年12月-2024年3月)

[その他の活動]

〈管理運営〉 科研費相談員

〈学会活動〉 阪神ドイツ文学会幹事

西村 謙一 (NISHIMURA Kenichi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 グローバリゼーション論A・B

〈共通教育担当科目〉 多文化コミュニケーション

[研究活動]

〈研究テーマ〉 東南アジア地域研究、フィリピン現代政治研究

〈所属学会〉 日本国際政治学会、日本平和学会、アジア政経学会、日本政治学会

[研究業績]

〈論文〉

・西村謙一「住民参加型評議会の役割に関する首長の認識が地方ガバナンスに与える影響—フィリピンの地方開
発評議会をケースとして—」『多文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集』第27号、pp.
35-46。

・Nishimura, Kenichi, "How does Decentralization Affect the Performance of Municipalities in Urban Environmental
Management in the Philippines?," *Lex Localis - Journal of Local Self-Government* 20(5), pp. 715-738.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Nishimura, Kenichi, "An Analysis of the Relationship between the Mayor's Perception on the Role of the Local Development
Council and the Mayor's Behavior and Local Government Performance: the Philippine Case," EROPA Conference 2022,
September 15, 2022

・Nishimura, Kenichi, "Performance of Local Governments under Participation-Oriented Mayors: The Case of the Philippines,"
2022 Korean Public Administration International Conference, June 22, 2022

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究（B）令和2年度～令和5年度「東南アジア地方自治ガバナンスと住民意識の分析—インドネシア、フィリピンの比較—」研究代表者

・科学研究費補助金基盤研究（B）平成31年度～令和4年度「政策波及の政治的動態と中央地方関係—タイ、フィリピン、インドネシアの比較—」（研究代表者：永井史男・大阪市立大学教授）、研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉男女協働推進センター会議委員

〈社会貢献活動〉兵庫県立高等学校評議員

平山 晃司 (HIRAYAMA Koji) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉超領域文化論 A・B

〈共通教育担当科目〉ギリシャ語初級・中級、ラテン語初級・中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉西洋古典学、古代ギリシアの法と宗教

〈所属学会〉日本西洋古典学会

[その他の活動]

〈管理運営〉超領域文化論講座代表者、紀要編集委員会委員長、設備・施設マネジメント委員会委員、安全衛生委員会委員、人文学研究科紀要編集発行体制検討ワーキンググループ委員

我田 広之 (WAGATA Hiroyuki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉公共文化形成論、言語文化システム論特別研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級・中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ思想史、ドイツ文化史

〈所属学会〉日本ドイツ学会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

【表象文化論講座】

小門 典夫 (KOKADO Norio) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉比較言語文化論 A・B

〈共通教育担当科目〉中国語初級Ⅰ・Ⅱ、国際コミュニケーション演習（中国語）、中国語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉機械翻訳ソフトの開発

木原 善彦 (KIHARA Yoshihiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉表象文化論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉現代英語圏小説および現代大衆文化

〈所属学会〉日本英文学会、日本アメリカ文学会、京大英文学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「絡み合う木の葉と言の葉——アリ・スミスの季節四部作」『群像』2022年2月号(77 [2]): 268-280.

〈翻訳・翻訳書〉

- ・アリ・スミス『夏』新潮社 2022年6月 (ISBN: 9784105901813)
- ・ジャンネット・ウィンターソン『フランキスシュタイン』河出書房新社 2022年7月
- ・ジョン・ケネディ・トゥール『愚か者同盟』国書刊行会 2022年7月
- ・リチャード・パワーズ『惑う星』新潮社 2022年11月 (ISBN: 9784105058777)

〈書評・論評・紹介〉

- ・「バラバラな世界とバラ色の夢」『波』（新潮社PR誌）2022年7月: 18-20

〔その他の活動〕

〈管理運営〉表象文化論講座講座代表、マルチリンガル教育センター言語教育副推進部長

〈学会活動〉日本アメリカ文学会評議員

〈市民向け講座・講演〉

- ・アリ・スミス『夏』について紹介 NHK ラジオ第1 『マイあさ!』著者からの手紙 2022年10月16日
- ・「見知らぬ他者の声を聞く——異文化体験としての翻訳」高大連携講義（滋賀県立彦根東高等学校の1年生が対象。文部科学省・WWL コンソーシアム構築支援事業の一環として） 2022年9月5日

田中 智行 (TANAKA Tomoyuki) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉言語文化比較交流論 A・B

〈共通教育担当科目〉中国語初級、中国語中級

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉中国古典小説研究

〈所属学会〉日本中国学会、東方学会、中国人文学会

〔研究業績〕

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・中国古典小説を構成から読む——『金瓶梅』を例として（第7回豊中地区研究交流会、2022年11月4日）

〔その他の活動〕

〈管理運営〉安全衛生委員会副委員長、マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会委員

津田 保夫 (TSUDA Yasuo) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tsuda/>

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉言語文化比較交流論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉18世紀ドイツ文学・思想史、村上春樹研究

〈所属学会〉日本独文学会、阪神ドイツ文学会、日本ヘルダー学会

〔研究業績〕

〈編著〉（複数の編者によるもの）著者名、書籍名、出版社、発行年月を必ず記載する。

- ・日本18世紀学会編『啓蒙思想の百科事典』丸善出版、2023年1月（分担執筆）

〔その他の活動〕

〈管理運営〉全学入試委員、公開講座ワーキング座長

〈学会活動〉日本ヘルダー学会理事、阪神ドイツ文学会幹事

〈市民向け講座・講演〉

・LCセミナー・言語文化学への招待II（2022年9月17日オンライン開催）講演

林 千宏 (HAYASHI Chihiro) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉表象文化論 A・B

〈共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語中級

〈学部教育担当科目〉

[研究活動]

〈研究テーマ〉16世紀フランス文学、書物の歴史

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本フランス語フランス文学会関西支部、日本ロンサール学会、大阪大学フランス語フランス文学研究会

[研究業績]

〈共著〉

・『仏検公式ガイドブック2級・準2級』2022年4月

・大阪大学『新・フランス語文法』編纂部会、『新・フランス語文法 四訂版』、朝日出版社、2023年1月。

〈論文〉

・「『図像』の変遷—『カンツォニエーレ』から『愛のエンブレム』へ—」『表象と文化 XIX』（言語文化共同研究プロジェクト）、2022, p. 13-24.

〈コラム〉

・連載「フランス語ものづくし」（第1回「パン」p.1-2、第2回「チーズ」p.1-2、第3回「交通機関」p.1-2、第4回「テーブルウェア」p.1-2、第5回「ビン、グラス」p.1-2、第6回「文房具」p.1-2、第7回「カフェ」p.1-2、第8回「椅子」p.1-2、第9回「クリスマス」p.1-2、第10回「ケーキ・お菓子」p.1-2、第11回「靴」p.1-2、第12回「劇場」p.1-2）（『ふらんす』白水社）2022年4月～2023年3月

〈解説〉

「『きこえたまま』ではない世界で」（斉藤洋『黒と白のあいだで 翔の四季 秋』講談社、9月、p.174-175）

「『こえてくる者』に耳をかたむけ、目をそらさないこと」（斉藤洋『こえてくる者たち 翔の四季 冬』講談社、12月、p.174-175）

〈口頭発表〉

・Le temps dans La Bergerie (1565) de Remy Belleau (Atelier franco-japonais organisé par Aya Iwashita et Anne-Pascale Pouey-Mounou) オンライン、6月

・「フランス・ルネサンス期における『作品集』の編纂—レミ・ベローの『牧歌』1565年版および1572年版を通して—」大阪大学言語文化学会第61回大会、10月）

〈研究助成〉

・科研費若手「フランス・ルネサンス文学における芸術作品の解釈・鑑賞行為の表象」（T1812342）

・科研費基盤（B）「初期近代西欧の視覚芸術における多様性と発想：美術と修辞学の創造的共同」（研究代表者 桑木野幸司）研究分担者

[その他の活動]

〈学会活動〉日本フランス語フランス文学会編集委員、日本ロンサール学会幹事、同学会編集委員、大阪大学フランス語フランス文学研究会編集委員、日本フランス語フランス文学会関西支部会実行委員

〈社会貢献活動〉文部科学省後援実用フランス語技能検定試験専門委員、日本フランス語フランス文学会 2022年度秋季大会（開催校：大阪大学）大会運営委員

〈主たる実施者となって開催した学会〉日本フランス語フランス文学会 2022年秋季全国大会、10月22日・23日、大阪大学豊中キャンパス・箕面キャンパス

福田 覚 (FUKUTA Satoshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉表象文化論A・B、表象文化論特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級I・II、ドイツ語初級II(再履修)、ドイツ語初級II(多言語学習用科目)、ドイツ語中級、

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ語圏の詩学史・思想史・文学

〈所属学会〉日本独文学会、同京都支部会、日本18世紀学会

[研究業績]

〈論文〉

・「自分が犯人だと知らない探偵——自己表象物語の書き換えについて(一)」『希土』(希土同人社、2022年9月1日)第47号 S.2-26

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院教務委員会委員、紀要編集委員会委員、安全衛生委員会委員、

村上スミス アンドリュー (MURAKAMI-SMITH, Andrew) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉翻訳研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Performance Workshop)

〈国際交流科目担当科目〉近代・現代日本文学、近代日本文学における大阪

[研究活動]

〈研究テーマ〉近代・現代日本文学、日本の地域言語文化、翻訳理論と実践

[研究業績]

〈論文〉

・「翻訳手順の「補償」——翻訳で失われたものを補うために——」言語文化共同研究プロジェクト2022『レトリックと文法』(大阪大学人文学研究科言語文化学専攻、2023)

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「翻訳手順の「補償」——翻訳で失われたものを補うために——」(大阪大学人文学研究科言語文化学専攻レトリック研究会、2023年3月7日)

[その他の活動]

〈管理運営〉全学国際交流委員会傘下 OUSSEP 運営 WG 委員

〈社会貢献活動〉石橋キッズランド代表代行、池田市バリアフリー推進協議会委員

山本 佳樹 (YAMAMOTO Yoshiki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉表象文化論 A・B、表象文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級I・II、ドイツ語初級I選択・II選択、ドイツ語中級、学問への扉

〈学部教育担当科目〉表象文化論 a・b

[研究活動]

〈研究テーマ〉映画学、ドイツ文化

〈所属学会〉日本映画学会、日本映像学会、表象文化論学会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学ドイツ学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈コラム〉

- ・山本佳樹「デュレンマットの『約束』と映画『プレッジ』」「『加担者』」パンフレット（オフィスコトナーネ）、2022年8月
〈研究発表・講演・学会報告〉
- ・山本佳樹「プラッテンバウが運ぶ夢：東ドイツの住宅政策とデーファ映画」、オンライン・シンポジウム「各国映像メディアにおける団地表象の比較研究」（オンライン開催）、2023年3月11日
- ・山本佳樹「授業実践①「映画評を書いてみよう」」、大阪大学 初年次教育「学問への扉」シンポジウム（大阪大学）、2023年3月13日
〈研究助成〉
- ・戦時下の日本におけるドイツ映画の受容についての研究、科学研究補助金・基盤研究C、研究代表者、2021年度-2023年度
〈主たる実施者となって開催した研究会〉研究会の名称、開催日、開催場所を記載する。
- ・デュレンマット研究会、2022年4月10日（神戸大学）、2022年6月19日（大阪大学）、2022年8月6日（神戸大学）、2022年10月22日（大阪大学）、2022年11月27日（神戸大学）、2023年2月11日（大阪大学）
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉教育課程委員会委員、人文学研究科言語文化学専攻副専攻長
- 〈学会活動〉日本映画学会顧問、阪神ドイツ文学会幹事

ヨコタ村上 孝之 (YOKOTA-MURAKAMI Takayuki) 准教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~murakami>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉比較言語文化交流論

〈共通教育担当科目〉ロシア語初級、ロシア語上級、

〈学部教育担当科目〉文学概論

[研究活動]

〈研究テーマ〉比較文学・文化理論、セクシュアリティの系譜学的研究、現代日本コミックス・アニメ研究

〈所属学会〉日本比較文学会、日本ロシア文学会、日本ロシア東欧学会、日本トルストイ学会、MLA, AAS, ENCLS,

ICLA, EAJS

[研究業績]

[その他の活動]

渡辺 貴規子 (WATANABE Kimiko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉翻訳研究 A・B

〈共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語中級

〈学部教育担当科目〉フランス文学Ⅱ講義（フランス文学作品研究講義2、フランス文学作品研究特殊講義2）

[研究活動]

〈研究テーマ〉フランス児童文学、日仏比較文学、翻訳児童文学

〈所属学会〉日本児童文学学会、日本フランス語フランス文学会、日本比較文学会、International Research Society

for Children's Literature、Association des Amis d'Hector Malot

[研究業績]

〈共著〉

・大阪大学『新・フランス語文法』編纂部会、『新・フランス語文法 四訂版』、朝日出版社、2023年1月。

〈論文〉

・「明治時代後期の少女向け読み物におけるジャンヌ・ダルクの伝記—ヒロイン像の変容をめぐる」『言語文

化の比較と交流』9号、2022年5月、1-10頁。

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「大正期の少女雑誌におけるフランス小説の受容 —— グザヴィエ・ド・メーストル原作『シベリアの少女』の翻訳をめぐる」、日本児童文学学会第61回研究大会、宮城教育大学（対面開催）、2022年11月20日。

〈研究助成〉

・科学研究費補助金 若手研究 研究代表者：「明治後期から大正初期の少女雑誌におけるフランス文学・フランス文化の受容」研究課題番号 21K12971（2021年4月～）

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化学専攻フランス語部会主任（マルチリンガル教育センターフランス語教育推進部会主任）、財務会計委員会委員、紀要編集委員会委員、ハラスメント相談員（部局）、人文学林「人文学基礎」チーム委員、大阪大学言語文化学会委員

〈学会活動〉日本フランス語フランス文学会語学教育委員会副委員長、日本児童文学学会運営委員、日本フランス語フランス文学会関西支部実行委員、日本児童文学学会関西例会実行委員、日本フランス語フランス文学会2022年度秋季大会（開催校：大阪大学）大会運営委員

【コミュニケーション論講座】

植田 晃次 (UEDA Kozi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究 A・B（副題：社会言語学の視点から見た「移民」をめぐる諸問題）、コミュニケーション論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉朝鮮語初級Ⅰ・Ⅱ、朝鮮語中級、国際コミュニケーション演習（朝鮮語）、地域言語文化演習（朝鮮語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本における朝鮮語教育史、在外朝鮮民族の言語をめぐる諸問題、朝鮮語に対する言語政策

〈所属学会〉朝鮮学会、多言語社会研究会、朝鮮史研究会

[研究業績]

〈論文〉

・「日本近代朝鮮語教育史の視点から見た島井浩と朝鮮語—対馬から釜山の日本人社会に渡り一生を送った人—」『言語文化研究』49、大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻・外国学専攻・日本学専攻応用日本語コース、2023.3、5-27頁（査読あり）

・「（研究ノート）朝鮮語テキストの言語呼称小攷—歴史と変化のはざまの風景—」『批判的社会言語学の深化（言語文化共同研究プロジェクト2021）』大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻、2022.5、44-55頁（査読なし）

〈研究助成〉

・2018～2022年度：科学研究費補助金基盤研究（C）「『旧朝鮮語学』の視点から見た日本近代朝鮮語教育史の総合的研究」（研究課題番号：18K00782、研究代表者）

・2017～2022年度：科学研究費補助金基盤研究（C）「漢字文化を基礎とした中期朝鮮語文法および語彙表の開発」（研究課題番号：17K02962、研究分担者）

・2019～2023年度：科学研究費補助金基盤研究（B）「異文化理解における外国語教科書の役割—中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として—」（研究課題番号：19H01282、研究分担者）

[その他の活動]

〈管理運営〉

・マルチリンガル教育センター：カリキュラム委員会・カリキュラム小委員会の各委員ほか

・言語文化研究科：（部内）〈部会選出〉朝鮮語部会主任、部会主任会議・財務会計委員会・紀要編集委員会の

各委員、(講座選出) 人権問題委員会、キャンパスハラスメント問題小委員会の各委員など
(学会活動) 朝鮮学会常任幹事・編輯委員 (2020 年 4 月～)

榎本 剛士 (ENOMOTO Takeshi) 准教授

[教育活動]

(研究科担当科目) コミュニケーション論 A・B

(共通教育担当科目) 総合英語 (Content-based English)

(学部教育担当科目) コミュニケーション論 a・b (外国語学部外国語学科 学共 - 方法論)

[研究活動]

(研究テーマ) 言語人類学、語用論、記号論、実践論・出来事論としてのコミュニケーション研究、言語イデオロギーを含むメタ・コミュニケーション研究、言語人類学の枠組みを援用した近現代日本の英語教育研究

(所属学会) 社会言語科学会、日本英語教育史学会、International Pragmatics Association

[研究業績]

(編著)

・『ポエティクスの新展開：プルリモーダルな実践の詩的解釈に向けて』片岡邦好・武黒麻紀子・榎本剛士(編)、ひつじ書房、2022 年 11 月

(論文)

・『『英語教育』の指標的類像として見る『英語の授業』』片岡邦好・武黒麻紀子・榎本剛士(編)『ポエティクスの新展開：プルリモーダルな実践の詩的解釈に向けて』(251-277 頁)、ひつじ書房、2022 年 11 月

・『『クロノトポス』について：コミュニケーション分析に援用するための理論的基礎考察』『言語文化共同研究プロジェクト 2021 ことばと社会①』、21-30 頁、2022 年 5 月

(書評・論評・紹介)

・「書評とトリプライコメント 鳥飼玖美子・鈴木希明・綾部保志・榎本剛士編著『よくわかる英語教育学』『日本英語教育史研究』第 37 号、121-126 頁、2022 年 5 月

(研究発表・講演・学会報告)

・榎本剛士・小林大介「参加型シンポジウム 英語教育史研究の諸問題 II：今、あらためて問う、英語教育の意義」日本英語教育史学会第 38 回全国大会 (オンライン開催)、2022 年 5 月 15 日

(研究助成)

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究強化 (B)「言説の変革を実現する言語教育観の国際比較研究」(2022 年 10 月～2027 年 3 月) 研究分担者 (研究代表者：嶋津百代)

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術変革領域研究 (B)「音声会話に伴う身振りを対象としたマルチモーダル記号論の構築」(2022 年 5 月～2025 年 3 月) 研究分担者 (研究代表者：高梨克也)

[その他の活動]

(管理運営) 図書委員会委員、マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会・カリキュラム小委員会委員

(学会活動) 日本英語教育史学会理事、社会言語科学会企画委員会委員、社会言語科学会研究大会発表賞選考委員会委員

(社会貢献活動) 放送大学大阪学習センター客員准教授

王 周明 (WANG Zhouming) 准教授

[教育活動]

(研究科担当科目) 語用論研究 A・B

(共通教育担当科目) 中国語初級 I・II、中国語中級、国際コミュニケーション演習 (中国語)

[研究活動]

(研究テーマ) 中国語歴史文法、方言文法

〈所属学会〉日本中国語学会、日本中国近世語学会、中日理論言語学研究会

[研究業績]

〈共著〉

・『中国語学辞典』（分担執筆）（日本中国語学会編、岩波書店、2022年10月）

〈論文〉

・「中国語教科書に見る「中国語」および「中国」—1950年代後半～80年代前半中国原編日本改編のものを中心に」（『時空と認知の言語学XI 言語文化共同研究プロジェクト2021』pp.1-10、大阪大学人文学研究科言語文化学専攻、2022年5月）

〈口頭発表〉

・「中国語教科書の内容構成に見る変化について—2000年以降日本刊行の中国語教科書を中心に—」（ワークショップ：「異文化理解における外国語教科書の役割（三）」2022年6月11日）

・「中国語音声表記法と日本の中国語教科書—ピンイン採用以前の実態概観—」（公開セミナー：「異文化理解における外国語教科書の役割—中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として」2023年2月17日）

〈研究助成〉

・科学研究費基盤研究B（課題番号A19H012820）「異文化理解における外国語教科書の役割—中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として—」（研究代表者、2019～2021年度（2023年度まで繰越））

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・ワークショップ：異文化理解における外国語教科書の役割（三）（2022年6月11日、大阪大学人文学研究科言語文化学専攻）

・公開セミナー：異文化理解における外国語教科書の役割—中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として—（2023年2月17日、大阪大学人文学研究科言語文化学専攻）

[その他の活動]

〈管理運営〉学内：全学ハラスメント相談員

専攻内：中国語部会主任・財務会計委員・大学院教務委員

〈学会活動〉日本中国語学会全国大会運営委員、学術誌（言語文化研究）の査読

〈社会貢献活動〉放送大学面接授業講師

大前 智美 (OMAE Tomomi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語技術研究

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習（ドイツ語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉外国語教育、ICT支援外国語教育・学習、メタバース活用

〈所属学会〉日本独文学会ドイツ語教育部会、e-Learning教育学会、外国語メディア教育学会、コンピュータ利用教育学会、日本外国語教育推進機構

[研究業績]

〈論文〉

・大前智美、「読解授業からの脱却—ドイツ語プレゼンテーションに挑戦—」、『2022 PCカンファレンス論文集』、pp235-236、2022年8月

・渡邊ゆきこ、小渡悟、大前智美、「VR空間内での活動を経験的記憶につなげる外国語教育」、『2022 PCカンファレンス論文集』、pp199-202、2022年8月

・渡邊ゆきこ、小渡悟、大前智美、「メタバース空間における臨場感・没入感をともなう語学学習—Mozilla Hubsを活用した大学の初級中国語授業—」、『コンピュータ&エデュケーション(53)』、pp31-36、2022年12月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・大前智美, 「Google Classroom+αによるオンデマンド授業の実践報告」, 外国語教育メディア学会 関西支部 2022 年度春季研究大会, 2022 年 6 月 26 日
- ・大前智美, 「読解授業からの脱却-ドイツ語プレゼンテーションに挑戦-」, 2022 年 PC カンファレンス, 2022 年 8 月 12 日
- ・渡邊ゆきこ, 小渡悟, 大前智美, 「VR 空間内での活動を経験的記憶につなげる外国語教育」, 2022 年 PC カンファレンス, 2022 年 8 月 13 日
- ・大前智美, 「ICT を活用したドイツ語授業における「自律学習」と「協働学習」」, 関西大学独逸文学会 2022 年度 第 114 回研究発表会, 2022 年 11 月 20 日
- ・大前智美, 北岡千夏, 「メタバースプラットフォーム「ENGAGE」を用いた授業の試み」, JACTFL 第 11 回シンポジウム, 2023 年 3 月 12 日
- ・山岡正和, 首藤美也子, 大前智美, 「高等学校における STEAM 教育導入をめざした情報科授業の実践」, e-Learning 教育学会第 21 回研究大会, 2023 年 3 月 18 日
〈研究助成〉
- ・基盤研究 C, 「VR 空間における「学び合いの場」の構築による外国語学習モデルの研究開発」 (課題番号 22K00682), 2022 年~2024 年
- ・基盤研究 C, 「VR を使った外国語教育と教材の開発」 (課題番号 22K00703), 研究分担者, 2022 年~2024 年
- ・基盤研究 B, 「多言語多文化社会を生きるための ICT 支援オンライン複言語学習モデルの研究開発」 (課題番号 21H00543), 研究分担者, 2021 年~2023 年
〈受賞〉
- ・e ラーニングアワード 2022, 「VR 活用教育特別部門賞」, 「VR 空間を活用した新しい語学教育法の開発」, 一般社団法人 オンライン教育産業協会, 2022 年 11 月
- ・大阪大学賞 教育貢献部門, 「市民講座「複言語学習のススメ」での社会貢献と ICT 支援教室設計運用への顕著な貢献」, 大阪大学, 2022 年 11 月
〈主たる実施者となって開催した学会〉
- ・e-Learning 教育学会第 21 回研究大会, 2023 年 3 月 18 日, 立命館大阪梅田キャンパス
[その他の活動]
〈管理運営〉
〈学会活動〉 e-Learning 教育学会 会長
〈社会貢献活動〉 市民講座 2022 複言語学習のススメ

小川 敦 (OGAWA Atsushi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 社会言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級 I・II、地域言語文化演習 (ドイツ語)、ドイツ語中級、学問への扉 (ことばの社会学入門)

〈学部教育担当科目〉 文化概論 (A)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 社会言語学、ドイツ語圏の言語政策、ルクセンブルクにおける移民の言語的人権をめぐる言語教育政策

〈所属学会〉 日本独文学会、日本言語政策学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・小川敦 (2022) 「ルクセンブルクの言語政策 多言語社会とドイツ語」、大宮勘一郎・田中慎 (編) 『シリー

ズ ドイツ語が拓く地平3 ノモスとしての言語』、201-230 頁。

・小川敦 (2022) 「ルクセンブルクの言語イデオロギーを再考する：議会請願を手がかりに (研究ノート)」、大阪大学言語文化研究科 言語文化共同研究プロジェクト 2021 『批判的社会言語学の深化』、56-6 頁 5。

・小川敦 (2022) 「ルクセンブルク語振興戦略」とその成立背景に関する一考察」、ドイツ文法理論研究会『エネルゲイア』47 号、29-50 頁。

・小川敦 (2023) 「研究ノート・ルクセンブルクにおける言語の多様性と統合をめぐる政治的な動き —ルクセンブルク語振興と早期複言語教育をめぐる—」、大阪大学人文学研究科人文学共同研究プロジェクト 2022 『ヨーロッパ超域研究』第4号、31-37 頁。

〈書評・論評・紹介〉

・小川敦 (2023) 「書評「庄司博史 (編) 『世界の公用語事典』丸善出版」」、社会言語科学会『社会言語科学』第25巻2号、68-71 頁。

〈研究発表・講演・学会報告〉

・小川敦 (2022) 「ルクセンブルクにおける近年の言語をめぐる議論 —「国語」と早期複言語教育から」、京都ドイツ語学研究会 2022 年 12 月

・小川敦 (2022) 梁敏鎬「日韓共生のための言語景観から見る 多言語政策に関する研究」討論者、第 13 回次世代日本研究者研究会、2022 年 12 月

・小川敦 (2023) 「現代ルクセンブルクにおける言語教育をめぐる言説」、言語教育エキスポ 2023、2023 年 3 月 (研究助成)

・科学研究費補助金 (基盤(C)) 「ルクセンブルクにおける移民の子弟への識字教育支援—社会経済的不平等の解消のために」 (2017-2022 年) 研究代表者

〈主たる実施者となって開催した学会〉

・阪神ドイツ文学会 第 72 回総会・第 237 回研究発表会、2022 年 4 月 3 日、関西学院大学

・日本言語政策学会 第 24 回研究大会、2022 年 6 月 18・19 日、京都大学

・阪神ドイツ文学会 第 238 回研究発表会、2022 年 7 月 10 日、オンライン開催

・阪神ドイツ文学会 第 239 回研究発表会、2022 年 12 月 5 日、大阪教育大学

[その他の活動]

〈管理運営〉 広報・社会貢献検討委員会委員長、ネットワーク委員、コンテンツ委員

〈学会活動〉 日本独文学会ドイツ語学ゼミナール実行委員、同データベース委員、阪神ドイツ文学会幹事

〈社会貢献活動〉 大阪大学サイバーメディアセンター「市民講座 2022 複言語学習のススメ」9 月、および 10 月

佐藤 彰 (SATO Akira) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 社会言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 談話分析、社会言語学、語用論

〈所属学会〉 International Pragmatics Association、社会言語科学会、言語文化学会

[研究業績]

〈論文〉「クルーズ船における新型コロナウイルス感染症への政府の対応を欧米メディアはどのように伝えたか？」大阪大学大学院人文学研究科『言語文化共同研究プロジェクト 2021：ことばと社会①』2022 年 5 月, pp. 1-10.

〈書評・論評・紹介〉

[その他の活動]

〈管理運営〉 図書委員 (インスペクション担当) (英語部会)、研究企画推進委員長 (コミュニケーション論講座)。

〈学会活動〉 メディアとことば研究会役員。

瀧田 恵巳 (TAKITA Emi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 コミュニケーション論特別研究、語用論研究

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ダイクシス表現を中心とする語用論

〈所属学会〉 日本独文学会、九州大学独文学会、西日本独文学会

[研究業績]

〈論文〉

・「指示詞の体系を構成する二つの意味基準について」『言語文化共同研究プロジェクト2021・時空と認知の言語学XI』 pp. 19-28. 大阪大学大学院言語文化研究科. 2022年5月

[その他の活動]

〈管理運営〉 設備・施設マネジメント委員会委員

秦 かおり (HATA Kaori) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 社会言語学研究A・B、コミュニケーション論特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (PB)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 社会言語学、相互行為論、コミュニケーション学、ナラティブ研究。特に、排除、差別問題。移民としての在英邦人女性を取り巻く社会的文化的環境の調査

〈所属学会〉 社会言語科学会、国際語用論学会、日本英語学会、日本社会学会、日本語用論学会、日本メディア学会、カルチュラル・スタディーズ学会

[研究業績]

〈論文〉

・「在英日本人移民のCOVID-19についてのナラティブにおけるアイデンティティ語りに現れる被差別体験を分析する—」大阪大学大学院人文学研究科『言語文化共同研究プロジェクト2021：ことばと社会①』2022年5月, pp. 11-20.

・「オンライン/ハイブリッド授業における雑談の機能と役割—大学院専門科目授業実践にみる新しい「日常」へのレジリエンス」『レジリエンスから考えるこれからのコミュニケーション教育』、pp. 21-39、2022年10月

・「社会言語学における質的研究の指導と研究支援：対面授業とオンライン授業の比較対照分析」『大学院留学生への研究支援と日本語教育：専門分野の違いを超えて』、pp. 107-128、ココ出版、2023年3月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・The distortion structure of classroom and small talk: How we run online classes、Sociolinguistics Symposium 24、於：Ghent University (ベルギー)、2022年7月15日 (口頭発表)

・Resilience in education: How the COVID-19 pandemic has impacted pedagogical issues、Sociolinguistics Symposium 24 於：Ghent University (ベルギー)、2022年7月15日 (パネル企画責任者)

・「オンライン/ハイブリッド授業における雑談の機能と役割 —大学院専門科目授業実践にみる新しい『日常』へのレジリエンス—」、公開ラウンドテーブル『レジリエンスから考えるこれからのコミュニケーション教育』、於：龍谷大学 (ハイブリッド)、2022年9月4日

・「排除と共生の狭間で —社会言語学に何ができるか—」、大阪大学大学院人文学研究科言語文化専攻公開講座、於：大阪大学 (オンライン)、2022年9月17日

・「ウイズコロナのニューノーマルハイブリッド授業実践におけるレジリエンスを考察する—」、第7回豊中地

区研究交流会、於：大阪大学豊中キャンパス、2022年11月4日（ポスター発表）

〈研究助成〉

- ・国際社会文化研究所研究プロジェクト（対話と共生が拓くこれからの言語・コミュニケーション教育―課題と実践への提言）、分担者、（代表：村田和代）、2021-2022年度
- ・科学研究費基盤 B「COVID-19 とデジタルネイティブ世代―多言語による語りの収集と分析」、分担者、（代表：村田和代）、2022～2024年度
- ・科学研究費基盤 BC「異文化理解のための話し葉コーパス―国際共通語としての英語で学ぶ現代日本社会」、分担者、（代表：山口征孝）、2022～2024年度
- ・国語研究所共同研究プロジェクト「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」、共同研究員、研究代表者：小磯花絵（国立国語研究所）、2022～2027年度

〈国際共同研究実施状況〉

- ・「COVID-19 とデジタルネイティブ世代―多言語による語りの収集と分析」、分担者（日本チーム）、（研究代表者：岩崎勝一（UCLA））

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

- ・第4回社会言語科学会シンポジウム、スチューデント・ワークショップ、（企画委員長として）於：オンライン、2022年9月4日
- ・第15回動的語用論研究会、2022年10月9日、於：オンライン
- ・第16回動的語用論研究会、2023年3月25日、於：大阪大学（ハイブリッド）

[その他の活動]

〈管理運営〉人文学研究科入試・広報委員会広報実務部門部門長、英語部会議長、マルチリンガル教育開発オフィス（英語教育開発チーム）

〈学会活動〉日本語用論学会評議員、日本語用論学会広報委員長、日本語用論学会事務局長、社会言語科学会企画委員会委員長、社会言語科学会理事、カルチュラル・スタディーズ学会編集委員、メディアとことば研究会世話人、『語用論研究』査読担当、『年報カルチュラル・スタディーズ』査読担当、査読担当委員、『社会言語科学』査読担当

村岡 貴子 (MURAOKA Takako) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語技術研究 A・B、コミュニケーション論 A・B

〈共通教育担当科目〉専門日本語

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本語によるアカデミック・ライティングの学習と教育に関する研究、専門日本語教育研究

〈所属学会〉日本語教育学会、専門日本語教育学会、社会言語科学会、異文化間教育学会、日本文体論学会

[研究業績]

〈編著〉

- ・村岡貴子（2023）「留学生の研究活動を支える専門日本語教育」（第1部第1章）村岡貴子編著『留学生への研究支援と日本語教育』pp.3-18、ココ出版

〈論文〉

- ・鎌田美千子・坪根由香里・副田恵理子・脇田里子・村岡貴子（2022）「日本語教員がライティング指導に感じる難しさ―指導経験年数に着目して―」『専門日本語教育研究』第24号、pp.75-82.
- ・村岡貴子・阿部新・中島祥子（2023）「中国の大学の中国人日本語専攻教員が持つ卒業論文指導に関わる文章教育観―重点大学の教員9名へのインタビュー調査から―」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第27号、pp.103-113.
- ・中島祥子・村岡貴子・阿部新（2023）「中国の大学でライティング教育を行う日本語母語話者教員のビリーフ

—4名の教員へのインタビュー調査から—『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第27号、pp.115-125.

・村岡貴子(2023)「理工系留学生に必要な日本語ライティング力」(第3部第10章)太田亨・安龍洙・村岡貴子・門倉正美編著『留学生への研究支援と日本語教育』pp.176-195、ココ出版。

〈書評・論評・紹介〉

〈研究発表・講演・学会報告〉

・村岡貴子(2022a)「研究活動に必要な書記言語コミュニケーションの世界—研究のデザインから日本語による学術論文公開まで—」カセサート大学大学院オンライン特別講義(タイ)(招待)、2022.9.24.

・村岡貴子・阿部新・脇田里子・池田隆介・大島弥生(2022)「学習者と教員の背景要因がアカデミックな日本語教育に及ぼす影響—ビリーフ・学習プロセス・学習環境の観点から狭義の言語能力育成を超えて—」日本語教育学会秋季大会パネルセッション、2022.11.26.

・村岡貴子(2022b)「大学での学習・研究活動に必要な書記言語コミュニケーションの世界—アカデミック・ライティングの実践と教育のために—」华南师范大学国家级一流学科建设(日语专业)教学研讨会(基調講演)(招待)、華南師範大学、2022.12.10.

・村岡貴子(2023)「趣旨説明と報告」『第15回大阪大学専門日本語教育研究協議会 学部初年次から大学院博士課程までの学習・研究活動に必要な日本語ライティング教育実践の諸相 報告書』大阪大学国際教育交流センター、pp.4-15、第15回大阪大学専門日本語教育研究協議会、2023.2.15.

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究(B)課題番号:19H01269 令和元年度~令和4年度「日本語読解・ライティングの方法に影響する母語・母文化の教育的背景要因に関する研究」、研究代表者

・科学研究費補助金基盤研究(B)課題番号:20H01270 令和2年度~令和5年度「日本語教師養成・研修におけるライティング教育実践能力の育成—批判的思考を中心に—」研究分担者

・科学研究費補助金基盤研究(B)課題番号:21H00537 令和3年度~令和6年度「アジア圏留学生の学修・キャリア支援教育における総合的支援に関する学際的研究」研究分担者

・科学研究費補助金基盤研究(A)課題番号:21H04417 令和3年度~令和6年度「海外縦断作文コーパスの構築に基づく文章算出能力の発達過程の実証的研究」研究分担者

・科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号:22K00637 令和4年度~令和6年度「理工系英語コース留学生の研究・就職に必要な日本語能力の分析と日本語教育への応用」研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉大阪大学ASEANキャンパス運営委員会WGメンバー、マルチリンガル教育センター兼任教員、国際教育交流センター副センター長、国際教育交流センター教務委員会委員長

〈学会活動〉専門日本語教育学会会長、社会言語学会編集委員会委員、日本語教育学会代議員選挙地域ブロック運営委員会委員、日本語教育学会審査・運営協力員、国立国語研究所共同研究プロジェクト「多様な言語資源に基づく日本語非母語話者の言語運用の応用的研究「日本語学習者の作文の縦断コーパス研究」」プロジェクト構成員

山下 仁 (YAMASHITA Hitoshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究、言語コミュニケーション論特別研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習(ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉社会言語学、ドイツ語学

〈所属学会〉日本独文学会、阪神ドイツ文学会、文法理論研究会、多言語社会研究会、多言語化現象研究会、IVG(国際ゲルマニスト会議)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

〈論文〉

・ Ablehnung der Kommunikation: Pragmatische Überlegung über die kontrastive Untersuchung der nicht-kooperativen Kommunikation 『言語文化共同研究プロジェクト 2021 : 批判的社会言語学の深化』(大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻編)、査読無、3-12 ページ、2022 年

・ Kontrastive Pragmatik: Einleitung (Claus Ehrhard; Rita Finkbeiner; Hitoshi Yamashita) Auteri, Laura et. al eds. *Wege Der Germanistik in Transkultureller Perspektive: Akten Des XIV. Kongresses Der Internationalen Vereinigung Fuer Germanistik Ivg (Jahrbuch Fuer Internationale Germanistik - Beihefte, 8)* Peter Lang, 査読有、177-182 ページ、2022 年

〈研究助成〉

・ 「多言語・多文化社会の言説におけるポライトネスの日独対照社会言語学的考察」科学研究費補助金基盤研究 C

[その他の活動]

〈管理運営〉リーディング大学院未来共生イノベーター博士課程プログラム学内プログラム委員、リーディング大学院超域イノベーション博士課程プログラム学内プログラム委員、CALL システムワーキング委員、

〈学会活動〉日本独文学会理事、阪神ドイツ文学会幹事、多言語社会研究会編集委員、多言語化現象研究会運営委員

義永 美央子 (YOSHINAGA Mioko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉コミュニケーション論 A・B、コミュニケーション論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉専門日本語

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本語教育学、応用言語学

〈所属学会〉日本語教育学会、社会言語科学会、言語文化教育研究学会、異文化間教育学会、第二言語習得研究会

[研究業績]

〈論文〉

・ 義永美央子・瀬井陽子・難波康治・角南北斗・韓喜善 (2023) 「大阪大学における言語学習支援の展開-ポストコロナを見据えて-」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』27 号、pp. 85-94.

・ 難波康治・相川大知・義永美央子・角南北斗・韓喜善・瀬井陽子 (2023) 「大学における日本語学習支援ウェブサイト調査(1)-国内の大学を対象として-」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』27 号、pp. 127-134.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ 義永美央子「自律学習支援に効果的なアドバイジングとは-振り返りを促す対話の実践と学習者オートノミー-」凡人社オンライン日本語サロン研修会 (招待・オンライン開催) 2022 年 6 月 4 日

・ 嶋津百代・古川智樹・義永美央子・北出慶子「教室談話分析による日本語教師の実践的コミュニケーション能力の考察-新たな日本語教師養成の可能性を目指して-」批判的的第二言語教育第 2 回国際シンポジウム「未来を創ることばの教育を目指して、内容重視の批判的言語教育 (Critical Content-Based Instruction: CCBI) のその後」(オンライン開催) 2022 年 8 月 11 日

・ 義永美央子「ポストコロナ社会における日本語教師の生きる道」筑波大学日本語・日本事情遠隔教育拠点主催第 3 回日本語教育と ICT 利用を考える<理念編> (招待・オンライン開催) 2022 年 9 月 13 日

・ 嶋津百代・義永美央子・北出慶子・古川智樹「教室談話再考-教師の実践的コミュニケーション能力の観点から-」日本語教育学会 2022 年度秋季大会 (オンライン開催) 2022 年 11 月 27 日

・義永美央子「VUCA の時代における言語の学習・教育を考える—オートノミーと教師の役割」JLEMENA2023
中東・北アフリカ日本語教育シンポジウム 2023 年 2 月 24 日 (招待・於国際交流基金カイロ日本文化センター)
(研究助成)

・科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号:19K00708 2019 年度~2022 年度「大学における日本語自律学習支
援者養成プログラムの開発」研究代表者

・科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号:20K00713 2020 年度~2023 年度「日本語教師養成における実践的
コミュニケーション能力育成プログラムの開発」研究分担者
(主たる実施者となって開催した研究会)

第二言語習得研究会第 33 回全国大会、企画運営、オンライン開催、2022 年 12 月 10 日・11 日

[その他の活動]

(管理運営)

教育課程委員会委員 (全学)、大学院人文学研究科兼任教員、マルチリンガル教育センター兼任教員、国際教育
交流センター教務委員、国際教育交流センター人権・ハラスメント対策委員会委員長、日研生プログラム実施 WG、
Maple 運営 Sub-WG

(学会活動)

日本語教育学会 常任理事、審査・運営協力員、社会言語科学会 編集委員、第二言語習得研究会 大会運
営委員会委員長、言語文化教育研究学会 査読協力者

(社会貢献活動)

・文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業 (日本語教師【中堅】に関する研修)「日本語教育学
会の人材、知財、ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プログラム」(JCN 研修) 専門委員
(市民向け講座・講演)

・「なぜ言語観の検討が必要なのか—日本語教育学の観点から—」静岡大学公開講座「コミュニケーションを考え
る」(招待・オンライン) 2022 年 9 月 17 日

・「学習者とのコミュニケーション—人ひとりの「声」を聴くために—」公益財団法人八尾市国際交流センター
ボランティア研修会・日本語ボランティア発展編 (招待・於八尾市国際交流センター) 2023 年 3 月 18 日

渡邊 伸治 (WATANABE Shinji) 教授

[教育活動]

(研究科担当科目) コミュニケーション論特別研究、語用論研究

(共通教育担当科目) ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習 (ドイツ語)

[研究活動]

(研究テーマ) ダイクシス, 視点, 語用論

(所属学会) 日本独文学会、ドイツ語文法理論研究会、京都ドイツ語研究会

[研究業績]

(論文)

・現代語版ルター聖書/現代語版チューリヒ聖書における gehen/kommen —マタイによる福音書を対象に— 『言
語文化共同プロジェクト 2021 時空と認知の言語学(11)』 p. 49-58, 2022 年 05 月

【第二言語教育学講座】

今尾 康裕 (IMAO Yasuhiro) 准教授

<https://sites.google.com/site/casualconcj/>

[教育活動]

(研究科担当科目) 応用言語学研究

(共通教育担当科目) 総合英語 (Project-based), 総合英語 (Academic Skills)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 テキスト分析ツール開発, 言語テスト, 英語教育, 英語アカデミックライティング

〈所属学会〉 日本言語テスト学会, 外国語教育メディア学会, 英語コーパス学会

[研究業績]

〈研究発表・講演・学会報告〉

・「CasualConc 3.0 - Universal Dependency タグを利用した文法検索の試み」英語コーパス学会第48回大会 (オンライン), 2022年10月1日

・「CasualConc ver. 3 を1日でとことん極める！」ワークショップ, 英語コーパス学会 ESP 研究会 (オンライン), 2023年1月7日

・「CasualConc を使って語彙分析！」ワークショップ, 英語教育語彙研究フォーラム, 北海学園大学, 2023年3月4日

〈アプリケーション開発〉

〈新規〉

・CasualMallet 1.0 (テキスト分析ツール)

・CasualMallet 1.0 マニュアル

〈開発継続〉

・CasualConc 3.0 (テキスト分析ツール)

・CasualTranscriber 2.7 (文字おこし補助ツール)

〈研究助成〉

・自然言語処理 CUI アプリケーションの汎用 GUI コーパスツールへの組み込み (科学研究補助金・基盤研究 C, 研究代表者, 2020–2023 年度)

・Testing and teaching second language pragmatic skills for studying abroad (科学研究補助金・基盤研究 B, 研究分担者, 2020–2024 年度)

[その他の活動]

〈学会活動〉 Asian Association for Language Assessment, コミュニケーション担当理事, 外国語教育メディア学会関西支部運営委員

〈社会貢献活動〉

・兵庫県令和4年度高校英語教育講座 講師

岩居 弘樹 (IWAI Hiroki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 第二言語教育実践研究 A・B、第二言語教育学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 地域言語文化演習 (ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ICT を活用した外国語教授法, 複言語学習, 教育工学

〈所属学会〉 日本外国語教育推進機構, 日本教育工学会, 外国語教育メディア学会, 日本デジタル教科書学会, 日本独文学会, 日本独文学会ドイツ語教育部会

[研究業績]

〈論文〉

・岩居弘樹, 「ICT を活用した「複言語学習のすすめ」」, 『サイバーメディアフォーラム No.23』, pp.13-17, 2022年12月

・岩居弘樹, 「医療系大学における「複言語学習のすすめ」—ICT 支援によるオンライン開講の試みと可能性—」, 『複言語・多言語教育研究 10』, pp.124-139, 2023年3月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・岩居弘樹, 「オンライン授業のこれまでとこれから」, 大学教育カンファレンス in 徳島, オンライン開催, 2022年1月7日

・Hiroki Iwai, “Deutschlernen mit Videoaustausch”, Koreanische Gesellschaft für Deutsch als Fremdsprache 19. Internationales Symposium, オンライン開催, 2022年4月22日

・岩居弘樹, 「これからの学びの在り方とオンライン授業の意義と注意点」, 千葉県総合教育センター研修会, 2022年8月17日

・岩居弘樹, 「ウィズコロナ時代のICTを活用した大学授業の新たな挑戦 —学生の能動的学修を目指して—」, 大阪府内地域連携プラットフォーム, オンライン開催, 2022年9月28日

・岩居弘樹, 「タブレットで広がる新しい外国語学習の可能性」, SpringX 超学校, グランフロント北館(大阪), 2022年12月7日

〈研究助成〉

・科研費基盤研究(B)(代表), 音声認識とビデオ撮影による自己省察を基礎としたICT支援複言語学習モデルの研究

・科研費基盤研究(C)(分担), VR空間における「学び合いの場」の構築による外国語学習モデルの研究開発

[その他の活動]

〈管理運営〉サイバーメディアセンター副センター長

〈社会貢献活動〉

・「複言語学習のすすめ」@岡山市立芥子山小学校 2022年9月~11月(7回)

〈市民向け講座・講演〉

・市民講座「複言語学習のススメ」2022年9月~12月(4回)

大谷 晋也 (OTANI Shinya) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語社会・文化研究A・B

〈共通教育担当科目〉多文化コミュニケーション(日本語)、学問への扉(多文化コミュニケーションセミナー)、アドヴァンストセミナー、International Communication Seminar (Japanese)203

〈学部教育担当科目〉第二言語社会・文化研究a・b

〈国際交流科目担当科目〉総合日本語 JA200、日本語・グローバル理解演習 (Japanese and Global Understanding)

600b・600e

[研究活動]

〈研究テーマ〉多文化・グローバル教育としての異言語(日本語)教育、言語教育政策、外国人医療支援に関する諸問題、日本古典文学データベース

〈所属学会〉日本語教育学会

[研究業績]

〈論文〉

・「授業観察を用いた教師研修の設計と評価 —立場の異なる日本語教師間での協働の促進—」(『日本語教育』183号 pp. 50-66) 野瀬由季子・大山牧子・大谷晋也、2022.12

[その他の活動]

〈管理運営〉国際教育交流センター教授会構成員(専任)、国際教育交流センター財務委員長、マルチリンガル教育センター運営委員会委員、同カリキュラム委員会委員、マチカネにほんご交流会・竹の子にほんご交流会担当教員

〈社会貢献活動〉医療事務連絡会(箕面市等)委員、みのお外国人医療サポートネット運営委員

岡田 悠佑 (OKADA Yusuke) 准教授

<https://sites.google.com/site/liloarise2690/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用言語学研究A、第二言語研究法B、第二言語教育学特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Project-based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 フィードバックによる学術的社会化、エスノメソドロジー的会話分析、第二言語語用論

〈所属学会〉 大学英語教育学会、全国語学教育学会

[研究業績]

〈論文〉

・ 岡田悠佑 (2022). フィードバックによる学術的社会化—EAP 授業における教師のポスト・パフォーマンス
フィードバックの会話分析. *JALT Journal*, 44(1), 107–135.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ 岡田悠佑 (2022 年 11 月) 「会話分析による第二言語研究入門」立命館大学大学院言語教育情報研究科「日本語教育学 10 (日本語を対象とした語用論と談話分析)」特別講義

・ Okada, Y. (2022, November). *Conversation Analysis of TA's Mediated Participation in EAP Classrooms*. 48th Annual Conference on Language Teaching and Learning. Fukuoka International Congress Center.

・ Okada, Y. (2022, October). *Co-operative action for disciplined perception: Microanalysis of team-teaching with TA in English for academic purposes classrooms*. Digital Meeting for Conversation Analysis 2022. Online.

〈研究助成〉

・ 科研費若手研究「学術目的のための英語コミュニケーション活動への口頭フィードバック手法のモデル化」

・ 科研費基盤C「アクティブ・ラーニング型大学英語授業における TA の授業参加法のモデル化」

[その他の活動]

〈管理運営〉 国際教育交流センター教授会構成員、言語文化学専攻大学院教務委員会委員

〈学会活動〉 日本語用論学会学会誌『語用論研究』査読担当

小口 一郎 (KOGUCHI Ichiro) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 第二言語教育方法論 A・B、第二言語教育学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 実践英語 (e-learning)、総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 イギリス・ロマン主義、18 世紀思想、アカデミック・ライティング

〈所属学会〉 日本英文学会、日本英文学会中部支部、イギリス・ロマン派学会、大阪大学言語文化学会、大阪大学英文学会、名古屋大学英文学会、大学英語教育学会 (JACET)、e-Learning 教育学会

[研究業績]

〈論文〉

・ 「『人間の時代』の Wordsworth — 風景と造園」日本英文学会第 94 回大会 (2022 年度) Proceedings.
<https://www.elsj.org/backnumber/proceedings2022/proceedings-2022-koguchiichiro.pdf>.

〈書評・論評・紹介〉

・ "Japan Shelley Studies Center (ed.), *The Age of Frankenstein: Bicentenary Essays (Frankenstein no Seiki)*." *Studies in English Literature, English Number*, no. 64, 2023, pp. 161-67.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ 「『人間の時代』の Wordsworth — 風景と造園」日本英文学会第 94 回全国大会 (オンライン) 招待研究発表、2022 年 5 月 22 日 (日) .

〈研究助成〉

・研究代表者「観念連合論の身体・物理的展開—近代文学批評理論の学際的再評価」科学研究費助成事業基盤研究(C) (一般) : 19K00392

・研究協力者「癒しと再生のロマン主義—グリーンケアをめぐる環大西洋エコロジーの展開と現代性」科学研究費助成事業・基盤研究(B) (一般) : 21H00512

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチリンガル教育センター・言語教育開発オフィス長、同 学習支援・社学共創開発オフィス長、教育情報化 WG 委員、次期 LMS 選定サブ WG 委員

〈学会活動〉 イギリス・ロマン派学会理事、e-Learning 教育学会理事・編集委員

〈市民向け講座・講演〉 朝日カルチャーセンター講師 (イギリス・ロマン派の詩)

中俣 尚己 (NAKAMATA Naoki) 准教授

<http://nakamata.info/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 第二言語社会・文化研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合日本語 JA300、日本語・グローバル理解演習 JGU500

[研究活動]

〈研究テーマ〉 計量言語学および日本語教育への応用

〈所属学会〉 関西言語学会、日本語文法学会、日本語学会、中国語話者のための日本語教育研究会、日本語教育学会、第二言語習得研究会、社会言語科学会、計量国語学会、日本語/日本語教育研究会、小出記念日本語教育学会

[研究業績]

〈編著〉 (単独の編者によるもの) 著者名、書籍名、出版社、発行年月を必ず記載する。

・森山卓郎(編) 『あいまい・ぼんやり語辞典』 東京堂出版 2022年7月

・話題別コーパス研究会(編) 『ミニストーリーで覚える日本語能力試験ベスト単語 N2 合格 2400』 ジャパンタイムズ出版 2022年11月

〈論文〉

・中俣尚己 「「～イトを稼ぐ」から「～イトを買う」へ」 金澤裕之・山内博之 (編) 「一語から始まる小さな日本語学』 pp.165-179, ひつじ書房, 2022年8月

・中俣尚己 「並列を表す接続詞と文体—「まとめて検索 KOTONOHA」を利用して—」 『計量国語学』 33-3, pp.422-432, 2022年12月

・中俣尚己・麻子軒 「『日本語話題別会話コーパス: JTOCC 語彙表』の公開と日本語教育むけ情報サイトにむけた指標の検討」 『言語資源ワークショップ2022 発表論文集・ポスター集』 2023年3月

・中俣尚己 「話題別コーパスから話題別単語帳を作成する試み」 『多文化社会と留学生交流』 27, pp.59-68, 2023年3月

〈書評・論評・紹介〉

・中俣尚己・加藤恵梨・堀内仁・山本和英 「『日本語話題別コーパス: J-TOCC』と『話題別日本語語彙表』」

『自然言語処理』 29-2, pp.740-747, 2022年6月

〈研究発表・講演・学会報告〉

・中俣尚己・麻子軒 「『日本語話題別会話コーパス: J-TOCC 語彙表』の公開と日本語教育むけ情報サイトにむけた指標の検討」 言語資源ワークショップ2022 (オンライン・国立国語研究所) 2022年8月30日

・中俣尚己 「話題が変わると言葉はどう変わるのか: 話題別会話コーパスの構築とその分析」 大阪大学豊中地区研究交流会 (大阪大学豊中キャンパス) 2022年11月4日

・中俣尚己 「『日本語話題別会話コーパス: J-TOCC』の構築・分析・活用」 京都教育大学国文学会 (京都教育大

学) 2022年11月23日

・中俣尚己「中納言を用いたコーパスデータの分析—テクニックと注意点—」 土曜ことばの会 (オンライン)

2023年1月21日

・中俣尚己「話題が変わると言葉はどう変わるのか: 話題別会話コーパスの構築とその分析」言語学フェス 2023 (オンライン) 2023年1月28日

〈研究助成〉

・科研費基盤研究(B) 「「話題から始まる日本語教育」を支援する情報サイトの構築と話題別会話コーパスの拡充」 (課題番号 22H00668) 研究代表者

・科研費基盤研究(B) 「聴解コーパスの構築による日本語学習者の聴解困難点と推測技術の実証的研究」 (課題番号 22H00669) (研究代表者: 野田尚史) 研究分担者

・科研費挑戦的研究(萌芽) 「外国人高校生の中退率 7.4 倍を改善する多言語対応版数学動画コンテンツの開発と普及」 (課題番号 20K20824) (研究代表者: 黒田恭史) 研究分担者

・国立国語研究所 共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」 (プロジェクトリーダー: 小磯花絵) 共同研究員

[その他の活動]

〈管理運営〉国際教育交流センターネットワーク管理者

〈学会活動〉計量国語学会理事、日本語教育学会広報委員長、中国語話者のための日本語教育研究会顧問、日本語/日本語教育研究会総務委員

難波 康治 (NAMBA Koji) 准教授

<http://chiba2014.jimdo.com/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉第二言語実践研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合日本語, 専門日本語

〈国際交流教育担当科目〉Japanese JA100

〈学部教育担当科目〉International Communication Seminar (Japanese) 103, [研究活動]

〈研究テーマ〉日本語教育における IT 利用、接触場面における話題マネジメント

〈所属学会〉日本語教育学会、社会言語科学会、日本デジタル教科書学会、韓国日本言語文化学会、e-Learning 教育学会

[研究業績]

〈論文〉

・標準日本語のアクセントの逸脱に対する違和感について: 4 拍語の名詞を対象として, 韓喜善・難波康治, 『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』 27, 2023年3月 pp. 19-26.

・大阪大学における言語学習支援の展開: ポストコロナを見据えて, 義永美央子・難波康治・瀬井陽子・角南北斗・韓喜善, 『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』 27, 2023年3月 pp. 85-93.

・大学における日本語学習支援ウェブサイト調査 (1): 国内の大学を対象として, 難波康治・義永美央子・韓喜善・瀬井陽子・角南北斗, 『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』 27, 2023年3月 pp. 127-134.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・標準日本語のアクセントの逸脱に対する違和感について — 4 モーラ語の名詞を対象として —, 韓喜善・難波康治・陳 曦, 日本言語学会第 165 回大会 (オンライン) 2023年11月12日

・VR ゴーグルを利用したメタバース環境下でのオンライン授業実践, 難波康治・簡珮鈴, e-Learning 教育学会第 21 回研究大会, 2023年3月18日

[その他の活動]

〈管理運営〉

- ・ 教育情報化ワーキンググループ
- ・ 次期LMS 選定サブワーキンググループ

〈学会活動〉

- ・ 韓国日本語文化学会海外理事

〈社会貢献活動〉

- ・ 公益信託井内留学生奨学基金 運営委員会委員
- ・ 井内奨学財団 評議員

西田 理恵子 (Rieko NISHIDA) 准教授

<http://www.rienishi.jimdo.com>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 第二言語教育法 A、応用言語学研究論 B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Content-based)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 応用言語学研究 (動機づけ、情意要因)、英語教育、方法論

〈所属学会〉 大学英語教育学会、外国語教育メディア学会、全国英語教育学会、小学校英語教育学会、International Association for the Psychology of Language Learning (IAPLL)

[研究業績]

〈編著〉

- ・ 西田理恵子 (編著) (2022). 『動機づけ研究に基づく英語指導』. 大修館書店.

〈論文〉

- ・ Nishida, R., & Takagi, T. (2023). Investigation of demotivational factors, motivation and amotivation for Japanese junior high school students in the Japanese EFL context. *LET Kansai Chapter Collected Papers, 21*, 1-17.
- ・ 西田理恵子 (2022). 『動機づけ研究に基づく英語指導』はじめに. 大修館書店.
- ・ 西田理恵子 (2022). 『動機づけ研究に基づく英語指導』第1章 先行研究. 大修館書店
- ・ 西田理恵子 (2022). 『動機づけ研究に基づく英語指導』第2章 教授法 (CLIL, プロジェクト型授業). 大修館書店.
- ・ 西田理恵子 (2022). 『動機づけ研究に基づく英語指導』第3章 教室内で学習者を動機づける仕掛け—CLILの実践を通して—. 大修館書店.

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 西田理恵子 (2023). N.Naoko (2021). Student motivation in English-Medium Instruction: Empirical studies in a Japanese University. Routledge. 『英語教育』 2023年2月号. 海外新刊書紹介. 大修館書店.
- ・ 西田理恵子 (2022). 英語学習者の「動機づけ」はどのようにして高められるのか. 大修館英語通信 『What's New!』 10月号. 自著紹介. 大修館書店.
- ・ 西田理恵子 (2022). Dörnyei, Z. & Ushioda, E. (Eds.). Teaching and Researching Motivation. Routledge. 海外新刊書紹介. 『英語教育』 8月号. 大修館書店.
- ・ 西田理恵子 (2022). 英語学習を支える「動機づけ」はどのようにして生まれ、高められるのか. 「動機づけ研究に基づく英語指導」自著紹介. 『英語教育』 7月号. 大修館書店.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ Nishida, R. (2023). Engagement, positive and negative emotions in English learning in the Japanese context. The 13th Asian Conference on Psychology and the Behavioral Sciences. March 31-April 3. Online.
- ・ Nishida, R. (2023). Investigation of inter-relations in social factors, engagement and motivation in English learning for Japanese junior high school students. The IAFOR International Conference on Education in Hawaii (IICE2023). Hawaii, US. Online.

- ・ Nishida, R. (2022). Influence of motivation and possible selves on proficiency situated in CLIL for Japanese tertiary students. *Psychology of Language Learning (PLL4)*. Sydney, Canada, Online.
〈研究助成〉
- ・ 2021 年度～2024 年度(代表)「中学校英語教育における学習者と教師の動機づけを高めるメカニズムに関する実証研究」科学研究費助成金 基盤研究 C (21K00759).
- ・ 2020 年度～2024 年度 (分担) 「Emotional intelligence as a mediator between positive and negative emotions and neuro-cognitive performance among Japanese EFL learners」基盤研究 C (20K00761), マキュワン麻哉 (早稲田大学) (代表).
〈調査活動〉
- ・ 枚方市長尾中学校の協力のもと、中学校 1 年生から中学校 3 年生を対象に中学生の動機づけと学習意欲減退要因に関する調査を行っている。
[その他の活動]
〈管理運営〉 人文学研究科学術推進委員会委員、人文学研究科国際連携委員会委員、国際教育交流委員会委員長、研究推進委員会委員、サイバーメディアセンター兼任、施設マネジメント委員会委員。
〈学会活動〉 The IAFOR International Conference on Education in Hawaii (ICE2023) 国際学会・査読員。
〈社会貢献活動〉
- ・ 科学研究費助成金基盤研究 C 特別講演企画「Overcoming graphophobia in the language classroom -or who's afraid of big bad writing-」と題して Paul Kei Matsuda 氏 (Arizona State University) をお招きし、ZOOM 特別講演を行った。大阪大学。
- ・ 科学研究費助成金基盤研究 C 特別講演企画「Longitudinal study of motivation to learn two languages simultaneously: Exploring the narratives of Japanese students in a study-abroad context.」 Haruna Fukui (Kansai University) をお招きし、ZOOM 特別講義を行った。大阪大学。
- ・ 西田理恵子 (2023). 第 8 回箕面市イングリッシュエクスプレッションコンテスト. 箕面市教育委員会. コンテスト審査員。

西出 佳詩子 (NISHIDE Yoshiko) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 第二言語教育方法論 A・B

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級・II、ドイツ語中級、地域言語文化演習 (ドイツ語) I・II

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ語学習者の読解、ドイツ語教育における協調学習、専門分野の教育を支える言語変種「学術ドイツ語」の習得、*Leichte Sprache* (やさしいことば) で書かれたテキストの分析と受容

〈所属学会〉 日本独文学会、ドイツ語教育部会、ドイツ文法理論研究会、阪神ドイツ文学会、大学英語教育部会

[研究業績]

〈論文〉

・ 「ジグソー法を用いてテキストを読む—ドイツ語初級クラスでの授業実践—」『人文研紀要』 (101)331-352 頁
2022 年

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ 「学習成果発信型のリアルタイムオンライン授業—ドイツ語授業実践からの提言—」第 7 回大阪大学豊中地区研究交流会 (2022 年 11 月 4 日)

〈研究助成〉

・ 「専門分野の教育を支える言語変種「学術ドイツ語」の習得：「読み」を焦点に」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2020 年 4 月 -2023 年 3 月 (研究分担者)

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチリンガル教育センターカリキュラム委員

〈社会貢献活動〉 Goethe-Zertifikat A1, A2 の実施・運営

日野 信行 (HINO Nobuyuki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 第二言語教育実践研究、第二言語教育学特別研究

〈共通教育担当科目〉 総合英語、英語選択、大阪大学の歴史 (適塾・緒方洪庵入門)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 「国際英語」教育

〈所属学会〉 International Association for World Englishes、日本「アジア英語」学会、大学英語教育学会、日本実践英語音声学会

[研究業績]

〈論文〉

・日野信行. 「『国際英語』教育の研究における歴史的考察の意義」『日本英語教育史研究』37, 37-60. 日本英語教育史学会. 2022年5月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Hino, Nobuyuki. Toward the legitimacy of Expanding Circle Englishes: The case of Japanese English. Summer Course on Asian Englishes. Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo, Japan. (オンライン). 2022年8月4日. 招待講演.

・Hino, Nobuyuki. Teaching EIL, WE, or ELF: Historical context and current issues of Global Englishes. Thursday “Brown Bag” Lecture Series, Department of Second Language Studies, University of Hawaii at Manoa, Honolulu, U.S.A. (対面). 2022年10月27日. 招待講演.

・Hino, Nobuyuki. & Oda, Setsuko. Revisiting the “ELF1” phase for teaching English in Japan. 13th International Conference of English as a Lingua Franca, National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan. (オンライン). 2022年11月20日.

〈研究助成〉

・日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C) 課題番号 18K00738 「大学における内容言語統合型学習(CLIL)による国際英語(EIL)教授法の開発」2018年度～2023年度 (研究代表者)

[その他の活動]

〈管理運営〉 適塾記念センター兼任教員、学生支援委員会委員 (研究科内)

〈学会活動〉 *World Englishes* (International Association for World Englishes 学会誌, Wiley) Editorial Advisory Board、*Intercultural Communication and Language Education* シリーズ (Springer) Editorial Board、*Routledge Advances in Teaching English as an International Language* シリーズ (Routledge) International Advisory Board、大学英語教育学会 ELF 研究会副代表

森 祐司 (MORI Yuji) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 第二言語社会・文化研究 A・B、第二言語教育学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語、実践英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アウトドア言語文化研究

〈所属学会〉 大阪大学言語文化学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチリンガル教育センター長

LEE SHZH-CHEN NANCY 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Academic skills)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 英語スピーキング能力発達、スピーキング自己効力感、教員自己効力感、L2 及び L3 習得に関する研究

〈所属学会〉 大学英語教育学会、全国語学教育学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈論文〉

・ Lee, N. S. C. (2022). Validating survey instruments for measuring L3 learning attitudes. *The PanSig 2021 Journal*, 267-278.

・ Lee, N. S. C. (2022). Conceptualizing online second language teacher self-efficacy 『言語文化共同プロジェクト 2021 応用言語学における理論と実践 – 研究と教育を通して』, pp. 10-18. 大阪大学言語文化研究科.

・ Lee, N. S. C., & Ogawa, C. (2022). Conceptualizing and measuring EFL speaking communicative adequacy for Japanese. *RELC conference proceedings*, 246-261.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ Lee, N. S. C. (2022, June). Effects of weekly explicit grammar instruction on L2 speaking development. *Pansig Conference*. Nagano

・ Lee, N. S. C. (2022, Nov). Effects of Grammar Instruction on Different L2 proficiency Level Speakers. 48th Annual Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition. Online.

・ Lee, N. S. C. & Ogawa, C. (2023, Mar). Students' perception of peer EFL interactive communicative adequacy. 2022 年度大学英語教育学会 (JACET) 関西支部大会. Online.

[その他の活動]

〈学会活動〉

言語文化学会企画編集委員, *Language Teaching Research Journal* reviewer, JALT National Conference abstract reviewer

〈管理運営〉 マルチリン

ガル教育センター派遣教員 大学院入試

〈社会貢献活動〉

【理論言語学・デジタルヒューマニティーズ講座】

越智 正男 (OCHI Masao) 教授

<https://sites.google.com/site/masaoochi>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 理論言語学 A・B (統語論)、理論言語学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、総合英語 (Content-based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 格の交替現象, 名詞句の統語構造, wh 構文

〈所属学会〉 日本言語学会、日本英語学会、関西言語学会

〈論文〉

・ Ochi, Masao (2022) "Numeral Classifiers and Labeling: A Preliminary Study," 『言語文化共同プロジェクト 2021 自然言語への理論的アプローチ』, 21-30. 大阪大学言語文化研究科.

・ Agbayani, Brian & Masao Ochi (2022) "Split Lexical Insertion in Parasitic Gap Constructions," *Studia Linguistica* (<https://doi.org/10.1111/stul.12207>)

〈研究発表・講演・学会報告〉

- Agbayani, Brian & Masao Ochi (2022) “On Ross’s have-X-to-Y Construction,” 2022 Annual Western Conference in Linguistics (WECOL2022), November 13, 2022, California State University, Fresno (online).

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究代表者: 「名詞句の構造と一致現象に関する比較統語論研究」 日本学術振興会 (令和2年4月 ~)

〈国際共同研究実施状況〉

- 日本学術振興会研究拠点形成事業「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」、分担者 [その他の活動]

〈管理運営〉 理論言語学・デジタルヒューマニティーズ講座代表、英語部会主任、外国語科目別連絡委員会委員長

坂内 千里 (SAKAUCHI Chisato) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 史的言語研究 A・B、史的言語特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 中国語初級 I・II、中国語中級、中国語中級選択、国際コミュニケーション演習 (中国語)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 中国の古い字書 (特に『説文解字』の注釈研究)

〈所属学会〉 日本中国学会、東方学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- 『説文解字繫傳』 「通論篇」 考 (二)、大阪大学大学院人文学研究科 言語文化学専攻・外国学専攻・日本学専攻応用日本語コース 『言語文化研究』 49、pp.51-69、2023年3月

〔その他の活動〕

〈管理運営〉 図書委員会委員、紀要編集委員会委員、マルチリンガル教育センター・広報委員会委員

菅谷 友亮 (SUGAYA Yusuke) 助教

<https://rd.iai.osaka-u.ac.jp/ja/dc53cda9ef1824b9.html>

<https://researchmap.jp/ysugaya/>

<https://sites.google.com/site/ysugaya1210>

〔教育活動〕

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 言語の意味論・語用論的認知処理を解明する視線・脳波計測研究

〈所属学会〉 国際認知言語学会、日本言語学会、日本語用論学会、日本認知科学会、日本心理学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- Okada, C. & Sugaya, Y. 2022. The Role of Case-Marking Particles in Interpreting the Japanese Auxiliary Verb (*Ra*)*reru*: Evidence from Eye-Tracking. *The Proceedings of the 165th Meeting of the Linguistic Society of Japan*: 173–179.

- Sugaya, Y. 2022. Investigating the Online Processing of Pragmatic Elements for Adjective Sentences in Japanese and Chinese: An Eye-Tracking Study. *The Proceedings of the 24th Annual Conference of the Pragmatic Society of Japan*: 185–192.

- 菅谷友亮・大喜祐太. 2022. 存在表現の生起条件に関する英独対照—実験的手法を用いて. 日本言語学会第 164 回大会予稿集: 31–37.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- Sugaya, Y. 2022. Interaction of Eye Fixation with Grammatical Salience: A Psycholinguistic Study on the Language–Vision

Interface *The 25th Annual Meeting of Pragmatic Society of Japan (PSJ)*. Online. November. Oral presentation.

・ Okada, C. & Sugaya, Y. 2022. The Role of Case-Marking Particles in Interpreting the Japanese Auxiliary Verb (*Ra*)*reru*: Evidence from Eye-Tracking. *The 165th Meeting of the Linguistic Society of Japan (LSJ)*. Online. November. Oral presentation.

・ 菅谷友亮・大喜祐太. 2022. 存在表現の生起条件に関する英独対照一実験的手法を用いて. 日本語学会第 164 回大会. オンライン. 6 月. 口頭発表.

〈研究助成〉

・ 科学研究費助成事業 (若手研究) 研究代表者「指示詞の意味論・語用論的認知処理を解明する視線脳波同時計測」(研究課題番号 22K13115, 令和 4 年 4 月～令和 7 年 3 月) 日本学術振興会.

[その他の活動]

〈管理運営〉ネットワーク運用管理委員会、コンテンツ管理委員会、部局キャンパスメールサービス管理、英語部会

田畑 智司 (Tabata, Tomoji) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tabata/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉デジタルヒューマニティーズ (テキスト分析論) A/B, デジタルヒューマニティーズ基礎, デジタルヒューマニティーズ特殊講義

〈共通教育担当科目〉総合英語(Content-Based)

〈学部教育担当科目〉デジタルヒューマニティーズ a/b, 学問への扉 (マチカネゼミ) 「ことばと文化のデータサイエンス: デジタルヒューマニティーズへの扉」

[研究活動]

〈研究テーマ〉Digital Humanities (デジタルヒューマニティーズ), Stylometry, Authorship Attribution, 機械学習を応用した近・現代英語散文の文体研究, Forensic Analysis of Texts

〈所属学会〉The Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO), The European Association for Digital Humanities (EADH), Association for Computers and the Humanities (ACH), Canadian Society for Digital Humanities / Société canadienne des humanités numériques (CSDH/SCHN), Australasian Association for Digital Humanities (aaDH), Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会), The Poetics and Linguistics Association (PALA), Dickens Fellowship, Dickens Society, 英語コーパス学会, 情報処理学会人文学とコンピュータ研究会(SIG-CH)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・ 田畑 智司 編『テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ 2022』(大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻 言語文化共同研究プロジェクト 2022 成果報告書) 2023 年.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ Tomoji Tabata, Diachronic Development in Stylometry and Textual Analysis—“Digital Humanities as/and Computational Science”, Digital Humanities Research Initiative: Building Digital Humanities (招待講演), 21 November 2022. Western Sydney University.

・ 田畑 智司「確率論的トピックモデリングによる British classic fiction の「遠読」」日本英文学会中国四国支部 第 74 回大会シンポジウム『デジタル時代の英語英米文学研究と英語教育—デジタル・ヒューマニティーズの有用性と可能性を考える』2022 年 10 月 2 日 オンライン開催

〈研究助成〉

・ 2018–2022 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「機械学習によるコーパス文体論分析モデルの提示とそれに基づく国際連携基盤の創成」研究代表者

・ 2022–2024 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「英米文学作品における歴史的文体研究としての英語表現史研究: 身体表現の機能の解明」研究分担者 (研究代表者: 安田女子大学・高口 圭輔)

[その他の活動]

〈学会活動〉 President of the Japanese Association for Digital Humanities, 英語コーパス学会会長

ホドシチェク ボル (HODOŠČEK Bor) 准教授

<https://nlp.lang.osaka-u.ac.jp/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 デジタルヒューマニティーズ A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Performance Workshop)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 自然言語処理、デジタルヒューマニティーズ、コーパス言語学、ウェブシステム、日本語学習支援システム

〈所属学会〉 言語処理学会、Japanese Association for Digital Humanities (JADH) & Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO)、計量国語学会

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ Development of datasets of the Hachidaishū and tools for the understanding of the characteristics and historical evolution of classical Japanese poetic vocabulary. Hodošček Bor, Yamamoto Hilofumi. *Digital Humanities 2022 Conference Abstracts*, 647-648, 2022年7月, 国際会議 査読有, オンライン.

・ 「単語アライメントの誤り対応を用いた歌ことばのコネクション検出」 陳 旭東, ホドシチェク ボル, 山元 啓史 『人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん) 2022 論文集』 (1), 111-118, 2022年12月10日, 査読有, オンライン.

[研究助成]

・ 基盤研究(C) 『歌ことばの効果的可視化技術と通時的言語変化記述に関する基礎研究』 (2018-2022) (代表: 山元啓史) (研究課題番号 18K00528) 研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉 部局情報システムセキュリティ責任者、部局 CSIRT、部局ネットワーク運用管理責任者、コンテンツ管理委員長、部局キャンパスメールサービス管理者

〈社会貢献活動〉 大阪大学体育会アイスホッケー部顧問

三浦 あゆみ (MIURA Ayumi) 准教授

<https://sites.google.com/view/helontheweb/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 史的言語研究 A/B (=学共-方法論「史的言語研究 a/b」)

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Academic Skills)

〈学部教育担当科目〉 英語学演習 IIa/b(A)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 英語史 (特に古英語・中英語)、史的統語論、(史的) 語彙意味論、(史的) 辞書学

〈所属学会〉 岩崎研究会、英語史研究会、近代英語協会、日本英文学会 (関西支部)、日本中世英語英文学会 (西支部)、Angus McIntosh Centre for Historical Linguistics、ISLE (International Society for the Linguistics of English)

[研究業績]

〈書評・論評・紹介〉

・ Review of Castro-Chao, Noelia. 2021. *Argument Structure in Flux: The Development of Impersonal Constructions in Middle and Early Modern English, with Special Reference to Verbs of Desire*. Bern: Peter Lang. ISBN: 978-3-0343-4189-9. <https://doi.org/10.3726/b17694>. *Research in Corpus Linguistics* 10(1), 213-227. DOI: <https://doi.org/10.32714/ricl.10.01.12>

・ Researchers' Words. Osaka University Prospectus 2022, p.62. <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/public->

relations/prospectus_folder/backnumber_prospectus/prospectus_2022

・「英語史における非人称動詞の実証的研究 データを緻密に分析し、英語史を解き明かす」『社会課題の理解と解決を目指して 大阪大学若手研究者の取組・ビジョン 2022』(大阪大学研究推進本部) p.9. <https://nc.ura.osaka-u.ac.jp/index.php/s/R4Rz2LkfSfSRRnq>

〈研究発表・講演・学会報告〉

・‘Middle English *mister*: Reassessment as a verb of need’ 日本中世英語英文学会第 38 回全国大会, Zoom. (2022 年 12 月 4 日)

・‘Lexical semantics of impersonal constructions: Its diachronic relation to loving and hating’ (The First Xavier Dekeyser Memorial Lecture), Colloque Bisannuel de la Diachronie de l’Anglais (CBDA-7), Zoom. (2023 年 1 月 13 日)

〈研究助成〉

・科研費基盤研究(C)「ウィクリフ訳聖書に見る、ラテン語からの翻訳に基づく語彙・文法とその後の歴史的発達」(研究代表者、課題番号 22K00619、2022～2024 年度)

[その他の活動]

〈学会活動〉日本中世英語英文学会評議員、日本英文学会編集委員

三藤 博 (MITO Hiroshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学(意味論)、研究実践基礎、研究発表演習、理論言語学特別研究

〈共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語初級選択、フランス語中級、地域言語文化演習(フランス語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉理論言語学、フランス語学

〈所属学会〉日本言語学会、日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、日本英語学会

[その他の活動]

〈学会活動〉日本フランス語学会編集委員

三宅 真紀 (MIYAKE Maki) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉デジタルヒューマニティーズ A・B (データ解析)

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Content-Based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉計算言語学、コーパス言語学、新約聖書学

〈所属学会〉情報処理学会準会員(人文科学とコンピュータ研究会)、Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会)

[研究業績]

〈研究助成〉

・科学研究費基盤研究(C)「新約聖書デジタル写本における深層学習による写字識別キュレーションシステムの構築」研究代表者

[その他の活動]

〈管理運営〉データバリティフロンティア機構兼任、ネットワーク運用管理委員会委員

〈学会活動〉JADH 選挙管理委員

宮本 陽一 (MIYAMOTO Yoichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉心理言語学 A, 理論言語学研究 B (統語論), 言語情報科学特別研究 A・B

(共通教育担当科目) 総合英語 (Content-based English)

(学部教育担当科目) 言語学概論 A, 学問への扉 (言語科学入門)

[研究活動]

(研究テーマ) Disjunctive Phrases の意味構造, N^o-ellipsis の統語メカニズム, Argument Ellipsis の L2・L3 獲得

(所属学会) 日本英語学会, 日本言語学会, 関西言語学会

[研究業績]

(編著) (複数の編者によるもの)

・ Miyamoto, Yoichi, Masatoshi Koizumi, Hajime Ono, Kazuko Yatsushiro and Uli Sauerland. *Key Concepts of Experimental Pragmatics*, 開拓社, 11/2022.

(論文)

・ Tamura, Ayaka, Yoichi Miyamoto and Uli Sauerland. Types of Disjunction: Negative Scope. *Concepts of Experimental Pragmatics*, 開拓社, 216-234, 11/2022.

(書評・論評・紹介)

・ Miyamoto, Yoichi. Andrew Radford, Relative Clauses: Structure and Variation in Everyday English. *Studies in English Literature*, 日本英文学会, 205-214, 03/2023.

・ 宮本 陽一. Lasnik, Howard and Mamoru Saito (1984): On the Nature of Proper Government. 『言語理論・言語獲得理論から見たキータームと名著解題』, 開拓社, 238-240, 03/2023.

・ 宮本 陽一. Saito, Mamoru (1985): Some Asymmetries in Japanese and Their Theoretical Implications. 『言語理論・言語獲得理論から見たキータームと名著解題』, 開拓社, 271-273, 03/2023.

(口頭発表・講演・学会報告)

・ Ikawa, Shiori, Akitaka Yamada and Yoichi Miyamoto. Japanese Clausal Argument Ellipsis and Embedded Clause Periphery. *Chicago Linguistic Society 58* (oral presentation), 04/23/2022, オンライン.

・ Miyamoto, Yoichi. On the Nature of Control in Japanese. *The English Linguistic Society of Japan 15th International Spring Forum* (oral presentation), 05/14/2022, オンライン.

・ Maeda, Masako and Yoichi Miyamoto. Stripping with Wh-indeterminate Remnants in Japanese. *The 16th Workshop on Altaic Formal Linguistics* (oral presentation), 10/02/2022, オンライン.

・ Maeda, Masako and Yoichi Miyamoto. Focus Movement Approach to Bare Wh-stripping in Japanese. *The 7th Okayama Linguistics Forum* (oral presentation), 10/27/2022, ノートルダム清心女子大学.

・ Maeda, Masako and Yoichi Miyamoto. Some Properties of Parasitic Gaps in Adjunct Control in Japanese. *The 30th Japanese/Korean Linguistics Conference* (poster presentation), 03/12/2023, Vancouver, British Columbia, Canada.

・ Tanaka, Eri, Masako Maeda and Yoichi Miyamoto. On Negative Island Effects and Exhaustification with Adjunct *Nani-o* in Japanese. *The 30th Japanese/Korean Linguistics Conference* (oral presentation), 03/12/2023, Vancouver, British Columbia, Canada.

(研究助成)

・ 研究拠点形成事業 (A. 研究拠点形成型: 研究代表者) 「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」日本学術振興会 (04/2021-03/2027)

・ 科学研究費補助金 (基盤研究 C: 研究代表者) 「生成文法の枠組みにおける量化に関する方言研究」日本学術振興会 (04/2018-03/2023)

・ 大阪大学国際共同研究促進プログラム (タイプ A+: 研究代表者) 「言語と論理的思考の発達に関する研究 II」大阪大学 (04/2021-03/2024)

(国際共同研究実施状況)

以下3件の研究助成のもと、ライブニッツ言語学研究センター、フンボルト大学、ミラノービコッカ大学と国際共同研究実施中。論文集出版 (11/2022).

・ ERC Synergy Grant Horizon 2020 : Excellent Science (European Research Council : 研究協力者) 「Realizing Leibniz's Dream: Child Languages as a Mirror of the Mind」 (01/2021 – 12/2026)

・ 研究拠点形成事業 (A. 研究拠点形成型 : 研究代表者) 「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」 (04/2021 – 03/2026)

・ 大阪大学国際共同研究促進プログラム (タイプ A+ : 研究代表者) 「言語と論理的思考の発達に関する研究 II」 (04/2021 – 03/2024)

[その他の活動]

〈管理運営〉 人文学研究科長, 評議員

〈学会活動〉 日本言語学会評議員, 日本言語学会編集委員, 日本言語学会倫理委員, 関西言語学会編集委員, ISMBS 2021 International Scientific Committee, Journal of Monolingual and Bilingual Speech Editorial Board, その他, 国際学会発表要旨・学術雑誌論文査読.

山田 彬堯 (YAMADA Akitaka) 准教授

<https://www.ay.lang.osaka-u.ac.jp/publications>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語統計学 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Academic Skills)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 コーパス言語学、統計モデリング、ベイズ統計学、理論言語学 (敬語、発話行為、ムード)、デジタルヒューマニティーズ

〈所属学会〉 日本言語学会、計量国語学会、日本英語学会、日本語用論学会

[研究業績]

〈編著〉 (複数の編者によるもの) 著者名、書籍名、出版社、発行年月を必ず記載する。

・ Yamada, Akitaka (2022) 'Chapter 8 Statistical Methods for Experimental Pragmatics.' In Key Concepts of Experimental Pragmatics, ed. by Yoichi Miyamoto, Masatoshi Koizumi, Hajime Ono, Kazuko Yatsushiro, and Uli Sauerland. Tokyo: Kaitakusya. 2022/11/16.

〈論文〉

・ Ikawa, Shiori and Akitaka Yamada (2022). A Hybrid Approach to Honorific Agreement: a Sprouted Valued Feature and an Unvalued Probing Feature. In Proceedings of the Fifty-sixth Annual Meeting of the Chicago Linguistic Society, 171-186.

・ Ikawa, Shiori and Akitaka Yamada (2022). Territory Feature and a Distributed Morphology Approach to Clause Periphery. *Japanese/Korean Linguistics* 29, 319-328.

・ Yamada, Akitaka (2022). A Distributed Morphology approach to Japanese phrase-final particles. In *The Proceedings of NELS* 52, 255-264.

・ Kaur, Gurmeet and Akitaka Yamada (2022) Honorific (mis)matches in allocutive languages with a focus on Japanese. *Glossa: a journal of general linguistics* 7(1). pp. 1-38.

・ 山田彬堯 (2022). イ形容詞文における丁寧語使用の歴史的変化 : 状態空間モデルを用いた時系列分析, 『自然言語への理論的アプローチ』 42-51.

・ Yamada, Akitaka (2023) Looking for default vocabulary insertion rules: Diachronic morphosyntax of the Japanese addressee-honorification system. *Glossa: a journal of general linguistics* 8(1), 1-47.

〈研究発表・講演・学会報告〉

・ Shiori Ikawa, Akitaka Yamada, Yoichi Miyamoto (2023) Japanese clausal argument ellipsis and embedded clause peripher. Workshop of The First In-Person Core-to-Core/LeibnizDream International Workshop, March 17-18 Workshop of The First In-Person Core-to-Core/LeibnizDream International Workshop, March 17-18. University of Milano-Bicocca, Italy.

・ 山田彬堯 (2022) 「適用形の通時的構文交替」 言語文化共同研究プロジェクト : テクストマイニングとデジタル

ヒューマニティーズ、オンライン。

- ・ Yamada, Akitaka (2023). A historical and morphosyntactic analysis of Japanese epistemic markers (dearoo/daroo and -oo). Oral Presentation in the 30th Annual Meeting of Japanese/Korean Linguistics. Simon Fraser University, March 11-13.
- ・ Yamada, Akitaka (2022). Historical Pragmatics using Space-State Models. Oral Presentation in the 25th Annual Meeting of Pragmatic Society of Japan. Kyoto University/Online. Nov 26-27.
- ・ Xuanxin Wu and Akitaka Yamada (2022). Acquisition of Standard Chinese Neutral Tone under Variation Theory: A comparison of Beijing Mandarin speakers and Cantonese speakers. 第165回 日本言語学会 オンライン.
- ・ 山田彬堯 (2022). 「適用形の通時的構文交替: 「させていただく」「させてもらう」「させてくださる」「させてくれる」の選択に対する状態空間モデルを用いた時系列分析」第66回 計量国語学会 日本大学.
- ・ Yamada, Akitaka (2022). Constructionalization of the Japanese addressee-honorification system. The 23rd Annual Meeting of the Japanese Cognitive Linguistics Association. 第23回日本認知言語学会 オンライン.
- ・ Yamada, Akitaka (2022). Subject-Honorific Markings in Imperatives: An OT-driven Dynamic Pragmatics. 第164回 日本言語学会 オンライン.
- ・ Ikawa, Shiori, Akitaka Yamada, and Yoichi Miyamoto (2022). Japanese Clausal Argument Ellipsis and Embedded Clause Periphery. CLS 58, Online.

〈研究助成〉

- ・ 「コーパス言語学と実験言語学の統合: 敬語の確率的構文交替を事例に」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2022年4月 - 2027年3月 (代表者)

〈国際共同研究実施状況〉

日本学術振興会研究拠点形成事業-A. 先端拠点形成型-「自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成」(コーディネーター: 宮本 陽一教授)、プロジェクトメンバー、

- ・ Ikawa, Shiori, Akitaka Yamada, and Yoichi Miyamoto (2022). Japanese Clausal Argument Ellipsis and Embedded Clause Periphery. CLS 58, Online.

[その他の活動]

〈管理運営〉英語部会 図書委員、図書インスペクション顧問

〈市民向け講座・講演〉LCセミナー司会

山本 武史 (YAMAMOTO Takeshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学 A・B (音韻論)

〈学部教育担当科目〉英語 1 (B) (読解)、英語 3 (C) (聴解)、英語学演習 IIIa・b (A) (豊中開講)、英語学演習 IVa・b (A)、英語学特別演習 IIa・b (B)、英語学概論 a・b

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語における語の音韻構造 (特に、音節構造と強勢)

〈所属学会〉関西言語学会、日本英語学会、日本英文学会 (関西支部)、日本音韻論学会、日本音声学会、日本言語学会、International Phonetic Association

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Yamamoto, Takeshi (2022) "Word-initial Yod Coalescence in British English: Why does *tune* coalesce, but *sue* does not?" 『音声言語の研究』16 [言語文化共同研究プロジェクト 2021], pp. 39-49, 大阪大学大学院人文学研究科 (<https://doi.org/10.18910/88407>)

〈研究助成〉

- ・ 日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 「分節素の重さとソノリティの統合」(17K02832、2017年度~2022年度) 研究代表者

・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C））「英語における音韻的揺れについて」（22K00603、2022年度～2024年度）研究代表者

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会委員（外国語学部・英語）

〈学会活動〉 日本音声学会音声学普及委員、日本英文学会編集委員（英語学分野副編集委員長）、『京都大学言語学研究』学外編集委員

〈社会貢献活動〉 日本音声学会主催「英語音声学入門講座」実践セッション講師

由本 陽子 (YUMOTO Yoko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 理論言語学研究（メンタルレキシコン研究）A・B、理論言語学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 語形成論、語彙意味論

〈所属学会〉 日本言語学会、日本英語学会、関西言語学会

[研究業績]

〈論文〉

・「日英語の形容詞に関わる語形成のメカニズムと意味解釈について」、沈力（編）、『類型論から見た「語」の本質』、pp.303-326. ひつじ書房、2023年11月.

〈翻訳・翻訳書〉

・『ケンブリッジ英語百科事典』（The Cambridge Encyclopedia of the English Language 3rd edition Chap.11 を担当）中島平三・田子内健介（監修）、朝倉書店、印刷中

〈研究助成〉

・科学研究費基盤研究(B) 『語形成から迫る形容詞の意味と項構造』、研究代表者

〈国際共同研究実施状況〉

・日本学術振興会 研究拠点形成事業『自然言語の構造と獲得メカニズムの理解に向けた研究拠点形成』（研究代表者 宮本陽一）、研究分担者

〈主たる実施者となって開催した研究会〉 関西レキシコンプロジェクト（通称 KLP）,7月30日、9月24日、2月12日、いずれもオンライン開催

[その他の活動]

〈管理運営〉 人文学研究科副研究科長、言語文化学専攻長

〈学会活動〉 日本言語学会評議員、日本英語学会評議員、日本英語学会学会賞委員会副委員長、関西言語学会副会長、関西言語学会運営委員、関西言語学会大会委員

〈社会貢献活動〉 新村財団評議員

【言語認知科学講座】

井元 秀剛 (IMOTO Hidetake) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知意味理論研究 A・B、言語認知科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 フランス語初級、フランス語中級、フランス語中級選択、「囲碁」で論理的思考を養おう

[研究活動]

〈研究テーマ〉 メンタルスペース理論による時制対照研究

〈所属学会〉 日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、日本英語学会、関西言語学会

[研究業績]

〈主たる実施者となって開催した学会〉関西言語学会、2022年6月11—12日、オンライン開催

[その他の活動]

〈管理運営〉マルチリンガル教育センター教務カリキュラム委員長

〈学会活動〉関西言語学会大会副委員長

大森 文子 (OMORI Ayako) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知レトリック論研究 A・B、言語認知科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉認知言語学

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本英語学会、日本認知言語学会

[研究業績]

(論文)

・大森文子「時のメタファーとシェイクスピア」『英語のレトリック・日本語のレトリック (言語文化共同研究プロジェクト 2021)』pp. 17-29. 大森文子編、大阪大学大学院言語文化研究科、2022年3月

(研究助成)

・科学研究費補助金基盤研究(C)(2020-2023)「英語メタファーの認知詩学Ⅱ」(研究代表者)

・科学研究費補助金基盤研究(C)(2019-2022)「英詩メタファーの構造と歴史Ⅱ」(研究分担者)

〈主たる実施者となって開催した研究会〉

・言語文化レトリック研究会 第119回特別セッション、2022年10月15日、人文学研究科言語文化学専攻 A棟 2階大会議室

・言語文化レトリック研究会 第120回例会、2022年11月26日、人文学研究科言語文化学専攻 A棟 2階大会議室

・言語文化レトリック研究会 第121回例会、2022年12月17日、人文学研究科言語文化学専攻 A棟 2階大会議室

・言語文化レトリック研究会 第122回例会、2023年3月7日、人文学研究科言語文化学専攻 A棟 2階大会議室

[その他の活動]

〈管理運営〉(学内)図書館委員会委員、附属図書館総合図書館運営委員会委員、(部局内)言語認知科学講座代表者、入試委員会委員

〈学会活動〉日本認知言語学会編集委員

小栗 哲哉 (KOGUSURI Tetsuya) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Project-based English)

〈学部教育担当科目〉言語認知科学論 (A)(B) (豊中開講)

[研究活動]

〈研究テーマ〉構文文法理論、認知言語学、語彙意味論、並列構造理論

〈所属学会〉日本英語学会、日本言語学会、日本認知言語学会、関西言語学会、日本語文法学会、英語語法文法学会、筑波英語学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

(論文)

・小栗哲哉「V 方ヲスル構文における解釈の二重性—構文文法的アプローチ—」『日本語文法』23(1), 189-

205, 2023年3月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 小葉哲哉 (2022) 「接辞「-ぶり/-つぶり」の意味分析」 Kansai Lexicon Project (KLP) 2023年2月12日.
- ・ 小葉哲哉 (2022) 「X-ぶり/-つぶり」に見られる用法と意味—「V方」との比較を通して—」日本語文法学会第23回大会 (2022年12月17日).

[その他の活動]

〈管理運営〉安全衛生委員会委員長、ネットワーク運用管理委員会委員、コンテンツ管理委員会委員、マルチリンガル教育センターカリキュラム開発オフィス委員

高橋 克欣 (TAKAHASHI Katsuyoshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語認知科学論 A・B

〈共通教育担当科目〉フランス語中級 (Intermediate French)

〈学部教育担当科目〉フランス語 3、フランス語 15(A)・(B)、フランス語学講義 a・b、フランス文化演習 IVA・IVb、フランス語科教育法 II

[研究活動]

〈研究テーマ〉フランス語学

〈所属学会〉日本フランス語・フランス文学会、日本フランス語学会、日本フランス語教育学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 「時況節の位置と談話解釈上の機能—quand 節と comme 節の分析」『時空と談話の言語学XI』(言語文化共同プロジェクト2021), 11-18, 2022年5月.

[その他の活動]

〈学会活動〉日本フランス語教育学会理事、日本フランス語学会編集委員 (事務局)

田村 幸誠 (TAMURA Yukishige) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知意味論研究 A・B

〈共通教育担当科目〉学問の扉、欧米言語文化研究 B

〈学部教育担当科目〉英語学特別演習 IIIa IIIb、英語学演習 Ia Ib、英語学 Ia (研修)、英語 2

[研究活動]

〈研究テーマ〉認知類型論からみた英語、ユピック・エスキモー語、日本語の研究

〈所属学会〉日本言語学会、日本英文学会、日本認知言語学会、アメリカ言語学会、国際類型論学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 田村幸誠 (2022) 「Profile からみたPhonologization—認知言語学的視点からの音韻記述に関する「橋渡し」的考察—」『大阪大学 英米研究』39-58.
- ・ 田村幸誠・松浦幸祐 (2022) 「方言習得に関する一考察：非関西圏出身大学生の京阪式アクセント習得をめぐる調査結果を基に」『時空と認知の言語学XI (言語文化共同プロジェクト2021)』29-38.
- ・ 松浦幸祐・田村幸誠 (2023) 「音声学基盤音韻論から見た方言習得—非関西圏出身大学生による大阪式アクセント習得における二つの壁—」『日本語・日本文化』(大阪大学日本語日本文化教育センター紀要) 161-192.

〈研究発表・講演・学会報告〉

- ・ 田村幸誠 (2023) 「Profile からみた Grammaticalization と Phonologization—認知言語学的視点からの音

韻記述に関する「橋渡し」的考察一」第46回福岡認知言語学会 於 福岡大学 2023年3月24日.

・田村幸誠・松浦幸祐 (2022) 「方言習得理論から見た非関西圏出身大学生の京阪式アクセント: Perceptual Dialectology とその実態」第7回大阪大学豊中地区研究交流会 於大阪大学豊中キャンパス、2022年11月4日.

・松浦幸祐・田村幸誠 (2023) 「方言習得に関する一考察: 非関西圏出身大学生の京阪式アクセント習得をめぐる調査結果を基に」国立国語研究所 共同研究プロジェクト 「多言語・多文化社会における言語問題に関する研究」 オンライン共同研究発表会 2023年3月12日.

〈研究助成〉

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究C 「名詞化と補文化に関する通言語的研究—ユピック・エスキモー語を中心に—」.

中嶋 浩貴 (NAKAJIMA Hirotaka) 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉フレーム意味論およびコンストラクション形態論に基づく英語の語形成の研究

〈所属学会〉日本認知言語学会、関西言語学会、日本言語学会、日本英語学会、日本語用論学会

[研究業績]

〈研究発表・講演・学会報告〉

・中嶋浩貴 (2022) 「英語の語形成への認知意味論的アプローチ: 概念メトニミー理論とフレーム意味論の観点から」大阪大学言語文化レトリック研究会第119回特別セッション、2022年10月15日

・中嶋浩貴 (2022) 「島根大学における 英語教育の実践のための一提案—三重大の実践と比較して—」、島根大学外国語教育センター 第15回FDミーティング、2022年7月29日

〈研究助成〉

・中嶋浩貴 (研究代表者、単独)、日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 (研究課題: 英語名詞由来 er 名詞の実証的・理論的研究: 構文とフレームの統合的アプローチ、課題番号: 22K13137、期間: 2022年4月 - 2025年3月)

[その他の活動]

〈学会活動〉日本認知言語学会大会実行委員

早瀬 尚子 (HAYASE Naoko) 教授

〈研究科担当科目〉認知言語学研究・認知言語学特別研究

〈学部教育担当科目〉英語1 (Reading) 英語3 (LL) ・英語13 (総合英語) ・英語学講義・英語学特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉認知言語学的枠組みによる構文研究、言語の主観性、視点、日英比較

〈所属学会〉関西言語学会、日本英語学会、日本認知言語学会、国際認知言語学会 (International Cognitive Linguistics Association)

[研究業績]

〈論文〉

早瀬尚子 (2022) 「カウンセリングのことばに見る認知言語学的世界観」『辻幸夫教授退職記念論文集』pp.170-181.

〈発表・講演〉

早瀬尚子 (2022) 「言語形式に結びつく意味とその拡がり—認知言語学的言語観—」LCセミナー: 言語文化への招待II (2022年9月18日: Online)

早瀬尚子 (2022) 「言語学的要素からインタラクション分析への橋渡し—意味論・語用論的概念を応用して—」
日本英文学会関西支部 シンポジウム (2022年12月18日：甲南女子大学・Online)

〈研究助成〉

・文部科学省 科学研究費基盤研究 (C)「主観的事態把握から対人関係的機能の発達の高多様性に関する多言語研究」
(No.18K00647) (平成30年度～令和5年度)

[その他の活動]

〈管理運営〉 外国語学部学科目代表 (英語専攻)

〈学会活動〉 理事・学会誌副編集委員長 (日本認知言語学会)、運営委員 (関西言語学会)